

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	専攻内の専門分野ごとに中心となる科目を設置し、その他にも教養的な科目を配置することによって、専攻における専門性を高めるとともに、個々の学生が幅広い教養を身に付けられるようにしている。	専門の分野に閉じこもることのないように、研究進捗状況の中間発表会を行ったり、ゼミを実施したりするなどして互いの状況を把握しつつ積極的に勉学や研究に取り組めるようにしている。	専攻内の各教員が厳格に成績評価を行い、学位授与に際しては研究発表内容をしっかりと吟味している。	各教員が個々の学生についてしっかりと学習成果を把握しており、研究については新たな知見が得られた場合には、できる限り学会等での発表を行わせるように指導している。	一部においては授業実施内容等について複数教員が内容のチェック等を行っているが、まだまだ不十分である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・しっかりとした基盤となる教養に基づいて、自らの専門を極めることができる。	【長所】 ・異なる専門分野の学生等からの思わぬ発想やアイデアを自分の専門領域に向けることができる。	【長所】 ・比較的他分野の集合体である農学専攻では、教員によって視点が多様であり、評価が一面的とならない。	【長所】 ・学位授与方針が明確であるため、学習成果の評価を行うに際してブレが少ない。	【長所】 ・定期的な点検を行うことにより、課程全体の学習状況や研究実績の向上が可能となる。
	【特色】 ・農学専攻が比較的多分野の集合体であることから、広い視野を養うことができる。	【特色】 ・農学専攻が比較的多分野の集合体であることから、豊かな発想能力を養うことができる。	【特色】 ・農学専攻が多分野の集合体であることから、多様な視点からの厳しい評価を行うことができる。	【特色】 ・明瞭かつ公正な評価が行われている。	【特色】 ・学生側からの意見等も反映させ、適切性保てるよう常に心掛けている。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・教養的な部分が必ずしも十全ではなく、もう少し幅広い観点からの授業が求められる。	【問題点】 ・研究室ごとの学生数にばらつきがあるため、必ずしも全員が恩恵を受けているとは限らない。	【問題点】 ・あまりに異なる分野の研究であるばあいには、学位授与に際しての評価を行うことが困難な場合がある。	【問題点】 ・一部、学習困難な状況に陥る学生が出ている。	【問題点】 ・農学専攻が比較的多分野を抱えているため、一律に全体を扱うことが難しい。
	【課題】 ・他専攻などとの共通科目等を設置するなどの対応が求められる。	【課題】 ・異なる専門分野の複数教員による指導等が望まれる。	【課題】 ・同一分野の中に複数の指導教員いることが望ましい。	【課題】 ・指導教員との間の密な接触が必要とされる。	【課題】 ・同一分野内に複数の教員を配置し、各分野における適切性をチェックできるようにしたい。
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本年度からは推薦入試による学生の選抜枠を大幅に拡大し、早い時期から専門性を重視したかたちでの入学者選抜を行うことができた。	年に3回（推薦、I期およびII期）行われる入試時期に、その時の状況等について教員間でのディスカッションを行い、適切性について十分な取り組みを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・遅くとも研究室配属がきまる学部3年次のころから、大学院進学に関する情報をあたえることができ、より意欲の高い学生に早期のうちに高いレベルに引き上げることができている。	【長所】 ・入試の回数が多いため、必然的に入試の実施について検討する機会が増加する。
	【特色】 ・学部在籍の早いうちから、より高度な専門教育や研究をめざす人材を発掘することができている。	【特色】 ・多数行われる面接等の機会により、学生の研究意欲をより適切に評価できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・比較的早期（推薦およびI期）のうちに入学枠の大半を満たすことになるため、II期の時点で優秀な学生を取り損なう可能性がある。	【問題点】 ・早期に実施される入試（推薦およびI期）においては教員側の意欲も高いことが多いが、II期の時点になるとやや意識が低下する可能性がある。
	【課題】 ・定員枠を上回ることを気にせず、優秀とみなされた学生については積極的に選抜していけるようにしたい。	【課題】 ・教員側も常に次代の研究者を育成するという使命をよく心得て、常に意識を高く保てるようにする必要がある。
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	農学専攻内の専門分野ごとに、適切な人材が配置されるように心がけている。	大学院が独立した存在ではなく、どちらかといえば学部の上の付属物的な形での存在であるため、どうしても学部における教員組織の充実が先行する傾向にある。	本年度は指導准教授として2名の昇格者があった。このことにより、同一専門分野における複数教員による体制が整備された。	専攻内の専門分野が多岐にわたるため、組織的な対応が行われているとはいいにくい面もあるが、できる限り内部での昇格者を登用するなど、組織の充実に努めている。	必ずしも定期的な点検は行っていないが、学部再編等による教員の異動が予想されるため、適切な組織体制の維持・構築に向けて検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・種々の教員による専門的な指導体制が構築できる。	【長所】 ・学部における教員編制が充実すれば、それに伴って大学院の組織も充実する。	【長所】 ・若くて優秀な指導教員の出現により、当該分野における進学者を多数確保できた。	【長所】 ・内部昇格者は専攻内の現状に通じており、今後の発展性についても適切な判断が下せる。	【長所】 ・学部再編による大きな異動があらかじめ予想されているので、これに対応して組織の適切性を検証できる。
	【特色】 ・同じ専攻とは思えない多様な人材を育成可能である。	【特色】 ・教員歴の長い経験豊富な指導教員を配置することができる。	【特色】 ・各専門分野において新進気鋭の研究者を確保している。	【特色】 ・学部学生時代から継続的に指導体制を整えることができる。	【特色】 ・現状における人材登用予定分野が明確である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・専門分野内の教員数を十分に確保することが困難な場合がある。	【問題点】 ・短期的な状況変化に対応することが難しい。	【問題点】 ・短期的には指導体制が整備されたものの、複数体制による指導が行き届いていない分野もある。	【問題点】 ・常に内部昇格者を確保することができず、分業によっては厳しい状況にあるところも見受けられる。	【問題点】 ・人材を補充すべき分野は明確であっても、有資格者を簡単に確保することはできない。
	【課題】 ・ある程度長い目で見て専門分野ごとの教員の育成を図る。	【課題】 ・外部からの人材導入も含め、時につなぎ的な人事体制を構築する必要性も考えられる。	【課題】 ・各分野において、できる限り昇格者による指導体制構築が求められる。	【課題】 ・学部人事の編制に際しても大学院組織のことを十分に考慮してもらうよう配慮をお願いする。	【課題】 ・内部登用だけでなく、一時的には外部からの適格者の確保が必要である。
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 畜産学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学院講義の内容・重複など、これまでのカリキュラムを見直し、カリキュラムの改正を実施し、平成30年度から運用を開始する。	畜産学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定している。専攻の教員全体で大学院生の研究の進展を知り、多様なサポート体制を作り、切磋琢磨する環境を整備している。	成績評価などを適切に実施し、学位取得のための口頭発表審査会は専攻内の指導教授全員が出席できる日程を選定し、全体で学位授与の決定を実施している。	大学院に進学した時点で、専攻説明会において学位授与方針を説明している。	大学で実施している授業評価アンケートの結果を考慮し、講義内容の改善や向上を試みている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・畜産学に関するより幅広い最新知識を得られるようにしている。	【長所】 専攻教員全体で大学院生へのサポートが可能である。	【長所】 特になし	【長所】 特になし	【長所】 特になし
	【特色】 ・特別講義を多く実施することで、畜産の専修分野を幅広く俯瞰した最新の専門知識の習得が可能になる。	【特色】 大学院生同士のディスカッションにより、切磋琢磨できる環境にある。	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 研究室配属前の学部学生の参加者が少ない	【問題点】 特になし	【問題点】 学部学生に対し、大学院における目標や修了後を明確にイメージさせる必要がある。	【問題点】 今年度の授業評価アンケートの回収率が低いため、正確な授業評価をできていない。
	【課題】 ・特になし	【課題】 学部学生への周知を強化する	【課題】 特になし	【課題】 各研究室の学部学生に対し、早期から大学院や学位授与方針について説明する機会を増やす。	【課題】 専攻教員全体での授業評価の周知を徹底する。
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学院入試説明会の際、大学院進学希望学生全員に対し、アドミッション・ポリシーおよび入試制度について説明をしている。 入試の点数や順位などは、指導教授全員で確認を行い、公正に実施している。	半年に1回の頻度で、畜産学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定している。専攻の教員全体で大学院生の研究の進展および生活状況を把握することで、入学学生の適切性を経時的に判断でき、学生への教育の質的向上や改善が可能になる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・専攻の教員全体で大学院生の研究の進展を知り、多重なサポート体制を作り、切磋琢磨する環境を整備している。
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	若手教員が大学院授業担当者に昇格できるよう、各指導教授および若手教員自身に積極的に周知している。	大学院授業担当者を増やすことで、大学院教育研究活動の更なる向上を目指している。	専攻の各指導教授に対し、昇格申請の案内を積極的に実施している。	半年に1回の頻度で、畜産学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定している。専攻の教員全体で大学院生の研究の進展および生活状況を把握する機会を設定している。	特になし
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・若手教員に対する研究意欲が向上する	【長所】 ・専攻教員全体の意欲が向上する	【長所】 ・特になし	【長所】 ・学生の発表を介して、担当する教員の教育能力の向上が期待できる。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・指導教授や准教授への昇格、大学院授業担当者の増加が達成できている	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・他専攻教員と学生の議論内容について、学生の担当教員に情報が伝わらないことがある。	【問題点】 ・本専攻の教員組織の適切性に関し、定期的な点検・評価をする機会が設置されていない。
	【課題】 ・本専攻の教員組織編制方針に関し、指導教授だけではなく、専攻教員全体での議論の場を設定する必要がある。	【課題】 ・本専攻の教員組織編制方針に関し、指導教授だけではなく、専攻教員全体での議論の場を設定する必要がある。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・各教員に学生と議論した内容を提出してもらい、その学生の担当教員に直接情報が伝わるシステムを構築する。	【課題】 ・本専攻の教員組織の適切性に関し、指導教授だけではなく、専攻教員全体での議論の場を設定する必要がある。
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 バイオセラピー学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	教育課程の編成方針に従い、分野横断的な人間動物関係学、人間植物関係学、生物介在療法学を必修の特論科目に置いている。また、実践的教育による研究力、コミュニケーション能力の向上を目的とした科目が複数配置されている。	シラバスでは授業の目的、到達目標等について明示し、それに沿った内容を展開しているが、一部で到達目標が記載されていないシラバスもある。研究指導計画は個々の指導教員と院生の間で生まれ、その確認と検証のため専攻内全教員の前で研究計画発表会が行われている。	成績評価および単位認定は大学院授業の性質上、授業内での議論、プレゼンテーションなど高度な専門知識を前提とした実践的教育内容であるため評価の客観性を欠くが単位認定のための時間数は厳格である。学位授与に関する基準の明示と責任体制および手続きの明示も適切に行われている。	本専攻では主として研究とプレゼンテーションを通して学位授与方針に見合う能力を学生に身につけさせている。その評価は指導教授との密な相談と定期的な発表会の実施によりその能力は評価確認されている。また、学生へのアンケートにより学習効果の評価のフィードバックを得ている。	全学的な取り組みとして前期、後期に授業評価を行い、その結果をもとに各担当教員が授業の改善を行なうとともに、専攻として改善計画を立てて実施している。また、大学院生セミナーの授業評価アンケートを専攻として独自に行っており、改善計画に役立っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・一部のシラバスに授業の到達目標が記されていない	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・学習成果を把握及び評価する方法が不十分である	【問題点】 ・大学院セミナーの教員の出席率が悪く、それが研究アクティビティの低さとして大学院生に伝わっている
	【課題】 ・なし	【課題】 ・第3者シラバスチェックを徹底し、全てのシラバスにおいて必要事項の記載を指導する。	【課題】 ・なし	【課題】 ・大学院生との定期的な面談とその情報共有によって学習成果の評価を行っていく	【課題】 ・院生のみならず教員にもセミナーの重要性を理解してもらう必要がある
根拠資料名					・【資料】 H29 大学院セミナーアンケート ・【資料】 H29 大学院セミナーアンケート集計表

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	年に二回の入試では入試説明会を実施するとともに、ウェブなどを利用した情報公開を通して学内外の受験者に配慮した説明を行っている。入試においては専攻主任を責任者として全ての研究分野からの出題と複数担当による語学問題の出題など公平性に配慮した筆記試験を実施している。また、口述試験は専攻内の全指導教員が担当し、合議により選抜を行っているため厳粛かつ公正に入学者選抜が行われている。	学生の受入の適切性については入学者選抜試験の際に行っているのみであり、その後の点検・評価は行われていない。現状では博士前期・後期課程で若干の退学者が何年かに一度見られるものの、進路変更が主たる理由であり、受け入れの適切性に問題があるとは考えていない。修了年限を超えて在学することになる学生には年度終了時に指導教員以外の教員（主として専攻主任・主事）が面談を行い、学生生活の状況などを確認している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・受け入れ後の定期的なアドミッションポリシーの適切性に対する評価が行われていない
	【課題】 ・なし	【課題】 ・アドミッションポリシーを実践できているかの評価について入学者、在学生に対して定期的な調査を行う必要がある。
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	「バイオセラピー学専攻 教員組織の編制方針」を策定し、その方針を専攻教員で確認している。	各分野に指導教授を複数(少なくとも専任教員を1名)配置し、充実した指導教授体制で分野の専門教育の質を高めている。授業においては指導教授に加えて充実した授業担当教員の配置によって、各教員の担当割合の負担を考慮した体制の構築が行われている。	必要に応じて専攻内指導教員による人事委員会を設置し、合議によって適切に人事計画がなされている。教員の募集、採用、昇任等は大学の規定に沿って適切に行われている。	専攻内会議においてファカルティデベロップメントについて議事を用意し話し合っている。また、1年間の研究活動をまとめた資料を作成している。	教員組織の適切性について定期的な点検・評価は実施されていない。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・FDを組織的な活動として実践できていない	【問題点】 ・教員組織の適切性について定期的な点検・評価を行う必要がある
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・大学院セミナーの場を利用してFDの組織的な活動へとつなげていく	【課題】 ・専攻内会議において教育、研究指導に関わる教員組織体制の課題を抽出する必要がある。
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	特論・特論実験・特別演習・特別実験・特別研究の必修科目のほか、分野横断的な選択科目（生命情報科学・分子細胞生物学など）および論文英語・プレゼンテーション法など、大学院博士前期、後期課程にふさわしい授業を実施している。特に分野横断型選択科目については、積極的に学外の第一線の講師を呼んで、講義を行っている。	教員、学生間また学生同士の交流を活性化するため、ポスター形式による専攻全体での中間発表会、懇親会などを行っている。	学生の活動率評価、中間報告会、修論発表会等により評価する。	研究室毎のゼミ、授業の習熟度および、専攻全体の発表会に基づき評価している。	研究室毎のゼミ、授業評価等に基づき、全所属教員により定期的に点検・評価し、その結果について専攻会議で慎重に議論し、教育課程の内容と方法を決定している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・先端研究の知識、技術を身につけられる点。	【長所】 学生自身の自主性を尊重する点	【長所】 特になし	【長所】 グループだけでなく個人とのディスカッションを通じてきめ細かな指導を行っている。	【長所】 特になし
	【特色】 ・外部講師等、学外の情報も積極的に取り入れられる点	【特色】 学部からの内部進学生が多く学生間の交流が活発な点	【特色】 特になし	【特色】 特になし	【特色】 特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし
	【課題】 ・なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	アドミッショ・ポリシーに基づき、生命科学に強い関心を持ち、食料、環境、健康問題の解決にチャレンジできる学生を求めている。大学院進学後に必要な学力を評価するために分子生物学、英語を試験科目として科しており、これらの筆記試験に加え、複数の教員による面接を実施している。全ての科目の試験後に専攻長を中心とした専攻教員全員による入試判定委員会により公正かつ客観的に選抜している。	試験後に選考会議を実施し、専攻の教員で十分に議論した上で選抜する。また研究室毎のゼミだけでなく、中間発表会より専攻全体で適切性について判断する。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・受験生とは選抜試験前からコンタクトを取り、進学後や卒業後の進路についてディスカッションを行っている。	【長所】 ・一人の学生の教育に複数教員が関与するため公正に点検、評価できる点
	【特色】 ・面接では専門知識だけでなく人柄も確認できる。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	設置の趣旨に基づき、学科の専任教員を配置している。専任教員の採用は、原則として公募し、募集要項にて専門分野に関する能力、教育に対する姿勢などの資質を明記している。	指導教授として文部科学省の設置基準を上回る教授13名を配置しており、十分な教育、研究指導を行うことができる。	専攻の教授により構成される人事委員会により以下の根拠資料に基づき実施している。 今年度は新学部設置に伴い、新任教員を採用した。また研究、教育実績を有する教員を昇任した。	自己教育評価、授業評価により、授業、研究指導、国際交流、大学運営、課外活動、学外活動を評価している。また、全学的なFD委員会にも参加をしている。また教員全員が原則として科学研究費補助金をはじめとする外部研究資金に申請することになっている。	本年度の学部改組に伴い、本専攻の教員組織に関しても教員体制を変更した。動物、植物、細胞分子機能の3分野の体制は維持し、それぞれの分野を専門とする教員を配置した。また授業担当に女性教員を二名増員し、より細やかな女子学生への対応が可能となった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・生命科学の幅広い分野を網羅できる教員の配置	【長所】 ・動物、植物、細胞分子機能の3分野にバランス良く教員を配置している点	【長所】 ・人事委員会による教員体制の定期的な確認	【長所】 ・外部研究資金の獲得推進	【長所】 ・3分野に各2研究室というバランス良い教員体制
	【特色】 ・同上	【特色】 ・適切な年齢、職位バランスを考慮した採用、昇任を行っている点	【特色】 ・各活動の点数化による明確な昇格目標の提示	【特色】 ・外部研究資金への申請	【特色】 ・複数の女性教員の配置
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名			東京農業大学、短期大学部における教員採用、昇格に関する条件 研究業績得点化表 教育、管理業務、社会活動評価得点化表 大学教員専任化審査判定表	自己教育評価 授業評価	

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農芸化学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	新研究科申請に向けて、編成について再考をしているところである。	大学院生への教育・研究支援は、所属研究室において手厚く行っている。		専攻内のM1中間発表会、および修士論文発表会などを通じ、学位授与方針を満たしているかどうかの判断に差が生じないようにしている。	大学が指定した授業評価アンケートについて、回答率を上げる努力をした。また、その結果に基づき改善を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 研究室教員から、各院生の状況や特徴に応じた個別指導を行っている。	【長所】	【長所】	【長所】
	【特色】 ・	【特色】	【特色】	【特色】	【特色】
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】	【問題点】	【問題点】	【問題点】
	【課題】 ・	【課題】	【課題】	【課題】	【課題】
根拠資料名				添付資料「M1 中間発表会タイムスケジュール（完成版）」「修士論文発表会スケジュール（完成版）」「H29 修士論文発表会の表紙」	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	各入試科目担当教員による出題・および採点を行い、その結果を基に大学院指導教授による口頭試問および会議で、厳正・公平な審査を行っている。2期入試受験者に対しては、口頭試問において、卒論研究に関するプレゼンテーションを行うことで適正を測っている。	各入試科目担当教員による出題・および採点を行い、その結果を基に大学院指導教授による口頭試問および会議で、厳正・公平な審査を行っている。2期入試受験者に対しては、口頭試問において、卒論研究に関するプレゼンテーションを行うことで適正を測っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	12月末に編成方針を提出した。	各研究室に必要な人数の教員が在籍し、各教員の専門分野も専攻の専門性に沿っている。 採用時の面接で教育や研究に関する適正を測っている。		FD セミナーなどに教員が積極的に参加している。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 醸造学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	醸造学に係わる高度な研究者、教育者、あるいは専門家としての総合力を確立し、学位授与方針に掲げた能力を身に着けるための教育課程を編成している。特論科目(コースワーク)と特別実験・特別実習(リサーチワーク)を適切に組み合わせた教育課程になっている。	シラバスの内容が明示され、実施されている。	講義科目についてシラバスに成績評価方法および基準が明示されている。修了要件および学位論文審査基準が明示され、適切に学位授与を行っている。学位審査および修了認定については専攻内委員会を開催し、客観性および厳格性を確保している。	学位授与方針に明示した学生の学習成果を専攻内における発表会、学会発表状況等から総合的に評価している。さらに醸造業をはじめとする微生物利用産業における修了生の活躍状況について、定期的に意見聴取し、評価している。	研究成果、就職状況等から教育課程の適切性について点検を行っている。醸造学専攻が掲げる卒業後の進路と実際の就職先がほぼ一致している点では適切である。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 ・なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 就職先への意見聴取に関して修了生の就職先全体を網羅できていない。	【問題点】
	【課題】 ・なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 修了生の就職先の方を企業懇談会に積極的に招待する。	【課題】
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	醸造産業をはじめとする微生物利用産業に興味を有していることや、微生物学的又は化学的な研究能力の向上に意欲的であることを学生の受け入れ方針に掲げ、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。	微生物や発酵を利用した、食品、医薬品、化学工業、環境関連産業等の発展に専門職業人として貢献することを掲げていることから、そのような企業等への就職状況に基づいて学生の受け入れの適切性について点検を行っている。さらに、講義科目の成績や専攻内の発表会の状況から、基礎学力をベースとして専門分野における知識を身につけているのか、微生物学、化学または生物工学を基盤とした研究能力を身につけているのかを評価し、入学者選抜が適切であったのか点検を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・微生物学的又は化学的な研究のために必要な基礎学力について試験により評価し、さらに口述試験により学生の受け入れ方針に合致することを評価し、入学者選抜を実施している。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	募集要項	就職先一覧、専攻内発表会要旨集

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	東京農業大学の求める教員像、東京農業大学大学院農学研究科教員組織の編制方針に基づき、醸造学専攻 教員組織の編制方針を策定した。	教員組織の編制方針に基づき、酒類生産学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境科学などの専門分野における高い研究業績を有し、本専攻の構成員として各種運営業務に積極的に取り組める教員から教員組織が編成されている。	醸造科学科および醸造学専攻の教育・研究の将来計画に基づき、教員の募集、採用ならびに大学院指導教授、指導准教授、大学院授業担当等の資格付与を適切に行っている。	大学の教学検討委員会が開催する教育改革推進プロジェクト「学内FDフォーラム」に積極的に参加し、教員の資質の向上を図っている。また、学生課が開催するハラスメント講習会に積極的に参加し、教員の資質の向上を図っている。	教員の研究業績や社会貢献、修了生の微生物利用産業等における活躍の状況等から、定期的に教員組織の適切性について点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 食品栄養学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input checked="" type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	前期課程では、公表している教育課程の編成・実施方針に記載された(1)、(2)、及び(3)の各項目全ての授業科目を開設による学位授与方針に掲げた能力の涵養。後期課程は、編成した教育課程の対象である3学年の在籍者が不在のため、リサーチワーク中心の教育編成。能力の向上に向けての適切に運用されている。	先端関連分野における外部機関所属研究者を招いた特別講義の開催による研究活性化の促進。 応用生物科学部関連4専攻による教育改革推進プロジェクト「大学院教育の高度化に向けたグローバル学術リーダー養成プログラム」への参画。研究に対する興味・海外留学への興味の増進への有効性が期待される。	卒業・修了要件に関しては、学生便覧等で明示。論文審査に関しては、修士は「公開審査会」、さらに合議制の「専攻内審査会」により審査を実施・承認。博士学位論文審査は、必要な論文数を明示し、さらに、「公開審査会」並びに合議制の専攻内の「審査報告会」開催による審査の実施。審査結果は、研究科委員会で報告・承認。いずれも適切に運用されている。	論文記載内容並びに、修士の「公開審査会」において総合的に(1)学力、(2)論理的思考、(3)問題解決能力、および、(4)コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力、を評価し、博士の「公開審査会」においては、要求される(1)体系的知識と分析力、(2)問題解決に向けた指導的能力、および、(3)国際的な発信力、を評価しているのみである。	学習成果の測定は実施していない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	平成29年度大学院授業実施報告書 評価報告2017	2017 大学院食品栄養学特別演習一覧 H29 海外研修プログラム案内 2017 海外研修報告会パンフレット	大学院 農学研究科 学生便覧2017 大学院農学研究科委員会議事録		

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入学前の学習歴・学力水準【A- (1)】、能力【A- (4)】、および、入学希望者に求める水準等の判定方法【A- (2)、(3)】を定めた学生の受け入れ方針を設定し、ホームページ上で適切に公開している。受験生募集は、インターネットなどにおいて学生の受け入れ方針を明示して実施している。入学者選抜制度は、学内推薦入試と学内外の受験生の公平性を担保したⅠ期とⅡ期の一般入試とにより適切に設定されている。入学者の選抜は、全ての入学試験において専攻内の研究指導教員より構成される入試選考委員による面接並びに、その後の専攻主任教授を長とする入試選考委員会の公正な審査を経て適切に行われている。	点検・評価は、実施していない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input checked="" type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	教員組織の編成方針については、今年度設定し、適切な表現を用いて明示している。	教育上主要と認められる食品機能学特論並びに栄養機能学特論の選択必修の特論科目に関しては、指導教授、並びに、指導准教授が担当しており、また、柱科目である選択科目の特論科目に関しては、食品機能開発学特論以外の全ての科目に少なくとも1人以上の、指導教授、或いは、指導准教授が担当しているなど、適正な配置が行われている。	専攻における人事計画に沿って、「大学等の設置基準」をもとに適切な職位ごとの充足を行っている。また採用・昇格に関しては、東京農業大学教員資格審査マニュアルに則り「5年以内の責任著者としての3報以上を有する」ことの取扱いなど、厳格な運用が行われている。	前学期・後学期に実施される授業アンケートの結果を大学院担当教員に回覧することで共有し、そこから問題点を抽出、適切な改善計画の策定を行ったうえで、適切に実施している。	実施していない。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・今年度に限り食品機能開発学特論は、定年退職による指導教授・指導准教授が不在である点。	【問題点】 ・「5年以内の責任著者として最低3報」をコンスタントに維持することが難しい点。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・今年度のみ指導教員不在となるが、次年度からの新カリキュラムへの移行に伴い、この科目は消滅するため問題は解消する。	【課題】 ・中長期の人事計画のみならず、組織改革など突発的な事象にも対応可能な論文作成計画を立案する。	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名		大学院 農学研究科 学生便覧 2017	教員資格審査マニュアル	2017F 授業評価報告書 改善計画書（食品栄養学専攻）	

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 林学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 講じている <input checked="" type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する現状説明	シラバスの内容の点検をしながら授業計画・内容に関する検討を実施。	研究テーマ、進め方等、大学院生との修学にあたっての協議を実施。	履修科目に関する授業への出席、試験、課題等を通して成績評価、単位認定を行うとともに学位論文審査を通して学位授与を行っている。	学生の修学状況を把握しながら学習成果を評価している。	シラバスの内容の定期的な点検、授業計画・内容の検討を通じた教育の改善・向上を実施。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・シラバス内容の点検を通して授業の計画・内容の検討・改善に寄与	【長所】 ・個別の研究の進め方・方向性等、修学の推進に貢献	【長所】 ・各専修分野を中心としながら実施することによる、より専門的な評価・認定の向上に寄与	【長所】 ・大学院生個別対応による学習成果の把握・評価の向上に寄与	【長所】 ・定期的な点検による教育の内容・指導方法の改善・向上に寄与
	【特色】 ・授業の計画・内容の向上に繋がる	【特色】 ・大学院生個別の状況に応じた修学の確保に繋がる	【特色】 ・大学院生に対する専門知識の高度化・深化に繋がる	【特色】	【特色】 ・定期的な点検・評価によるPDCAサイクルを通じた教育の内容・指導方法の改善・向上が期待される
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入学者選抜の制度や試験科目等の見直しを実施している。入学者選抜にあたっては他大学からの受験者に対する考慮もしながら、公正に実施している。	入学者選抜試験時に点検・評価を実施するとともに毎年、学生の受け入れの適切性について点検・評価を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・社会情勢に対応しながら制度・体制を整備することが可能となる	【長所】 ・定期的な点検・評価による学生の受け入れに関する改善・向上に繋がる
	【特色】 ・社会情勢の変化に対応した柔軟な制度・体制づくりが期待できる	【特色】 ・定期的な実施による PDCA サイクルを通じた改善・向上が期待できる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・心的病を有する大学院生の増加。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・教員間で情報を共有しつつ、協力しながら具体的に解決していくことが必要。
根拠資料名	入試説明会の開催	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	林学専攻教員組織の編成方針（案）を作成している。	林学専攻教員組織の編成方針（案）に基づき、4専修分野に区分しながら適切に教員組織を編成している。	専攻会議等を通して教員の募集、採用、昇任等を適切に行っている。	専攻会議等を通して教員及び教員組織の改善につなげている。	専攻会議等を通して教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・教員組織の編成方針作成による編制の明確化	【長所】 ・専修分野に対応した教員組織の明確化に繋がる	【長所】 ・会議を通じた情報の共有・議論の展開に寄与	【長所】 ・会議を通じた議論の展開に寄与	【長所】 ・定期的な点検・評価による教員組織の改善・向上に寄与
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・公平性・透明性が担保される。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農業工学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	農業工学専攻博士前期課程では、農業工学に係わる技術者、研究者あるいは教育者としての総合力を確立し、地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学における専門知識と、研究および論文作成手法を修得するための科目を体系的に配当し、コミュニケーション能力を増強できるカリキュラムを編成しています。また、後期課程農業工学専攻博士後期課程は、農業工学に係わる研究者、高度な技術者あるいは教育者としての総合力を確立し、農業工学の専門的課題を自ら解決できる能力を獲得させるため、抽出能力、分析能力、企画能力を養うことを目的とし、コミュニケーション能力や問題解決能力を増強できるカリキュラムを編成しています。	セメスター毎に大学院授業評価を大学院課が中心となって受講生を対象に実施しており、農業工学専攻ではその結果を受けて優先的に対応すべき項目の洗い出しと分析を行い、改善計画を提出しています。併せて、作成した改善計画に基づき、指導・授業を実施し、次の授業評価で対策の効果を検証するサイクルを継続しています。	農業工学特別演習や農業工学特別研究については、主査と副査のみならず、大学院教員全員（指導教員と授業担当者）の出席のもとに開催される中間発表や最終発表に基づいて、大学院教員全員で成績評価とともに単位認定を行い、学位授与を決定しています。	博士前期課程では、研究科が定める所定の単位を修得し修士論文を提出するとともに、農業工学に関する専門知識と研究能力を有し、国内のみならず海外の現場での農業工学の専門領域における技術開発や問題解決に役立てる能力を備えた学生に修士の学位を授与しています。また、博士後期課程では、研究科が定める所定の単位を修得し博士論文を提出するとともに、農業工学に関する高度な専門知識と優れた研究能力を有し、国内のみならず海外の現場での農業工学の専門領域における具体的な問題解決に資する高度な能力を備えた学生に博士の学位を授与しています。	セメスター毎に大学院授業評価を大学院課が中心となって受講生を対象に実施しており、農業工学専攻ではその結果を受けて優先的に対応すべき項目の洗い出しと分析を行い、改善計画を提出しています。併せて、作成した改善計画に基づき、指導・授業を実施し、次の授業評価で対策の効果を検証するサイクルを継続しています。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・博士前期課程では農業工学に係わる技術者、研究者あるいは教育者として、また後期課程農業工学専攻博士後期課程は、農業工学に係わる研究者、高度な技術者あるいは教育者としての総合力の確立を目指しています。	【長所】 ・受講生である大学院生の評価に基づいた改善計画を立案できています。	【長所】 ・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、成績評価とともに単位認定を行い、学位授与を決定しています。	【長所】 ・農業土木および農業機械分野の学問を基軸として、国内のみならず海外の現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる高度な能力を持った人材の輩出を目指しています。	【長所】 ・受講生である大学院生の評価に基づいた改善計画を立案できています。
	【特色】 ・地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学の4つ	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・主査と副査のみならず、大学院教員全員（指導教員と授業担当者）の出席のも	【特色】 ・なし

平成29年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式1

	の専修で構成しています。			と、中間発表や最終発表を実施し、学習成果とともに研究成果を評価しています。	
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・受講生の少ない科目については、回答した院生を特定できてしまう問題点があります。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・受講生の少ない科目については、回答した院生を特定できてしまう問題点があります。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	農大ホームページ 教育研究上の目的・目標ならびに3方針 農学研究科農業工学専攻	大学院課通知一式 「授業評価アンケート実施後の改善プロセスについて」	生産環境工学ガイド 2017 pp.58-62	生産環境工学ガイド 2017 pp.58-62	大学院課通知一式 「授業評価アンケート実施後の改善プロセスについて」

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>農業工学専攻では、以下の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制（推薦入試、一般入試等）を適切に整備し、公平に入学者選抜を実施しています。</p> <p>博士前期課程では、農業工学に対する深い理解の上に、専門分野における基礎的な問題を自立的に解決できる人材を育成するため、以下のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境に配慮して食料生産の基盤づくりに寄与する農業工学に興味を有している。 2. 農業工学の専門領域における基礎的な知識・技術を有し、持続可能な社会の構築を目指し、地域資源の有効利用と循環型社会の構築に技術者として貢献したいという強い意欲を有している。 3. 地域資源利用学、生産環境・計画学、施設工学、農業生産システム工学における専門分野に関する研究に熱意を持って取り組むことができる。 <p>また、博士後期課程は、農業工学に対する深い理解の上に、研究者または高度な技術者として自立し、専門分野において高度で独創的な研究能力を有する人材を育成するため、次のような学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境に配慮して食料生産の基盤づくりに寄与する農業工学に深い興味を有している。 2. 農業工学の専門領域における高度な知識・技術を有し、持続可能な社会の構築を目指し、地域資源の有効利用と循環型社会の構築に、研究者として、また高度な技術者として、貢献したいという強い意欲を有している。 3. 農業工学に関する高度な専門知識・技術を駆使して新領域の開拓に挑戦する意欲を有している。 	<p> Semester毎に大学院授業評価を大学院課が中心となって受講生を対象に実施しており、専攻ではその結果を受けて優先的に対応すべき項目の洗い出しと分析を行い、改善計画を提出しています。併せて、作成した改善計画に基づき、指導・授業を実施し、次回の授業評価で対策の効果を検証するサイクルを継続しています。</p> <p> その結果を踏まえて、定期的に学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）の見直しをおこなっています。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・様々な入学者選抜制度があり、多様な人材の受入を目指しています。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・工学分野では求人が多く、優秀な学生ほど大学院に残りにくい傾向にあります。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	農大ホームページ 教育研究上の目的・目標ならびに3方針農学研究科農業工学専攻	大学院課通知一式 「授業評価アンケート実施後の改善プロセスについて」

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> つなげている <input type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>教員組織の編制に関する方針として、農業工学専攻では、以下を明示しています。</p> <p>農学研究科の教員組織の編制方針を踏まえるとともに、農業工学分野における保有する博士学位や高度な専門能力及び論文作成指導能力に加え、国際化に対応しつつ、人類が直面する農業農村開発と自然環境の保全との狭間で生じる地球規模の諸問題の複雑化に合わせて、多様な教育・研究を展開する教育体制を構築し、建学の精神「人物を畑に還す」のもと、国内だけでなく、世界各国、地域で活躍する優れた高度人材を育てることを目的として、農業工学分野における高度な専門的能力と学識を備えた研究者及び技術者を養成する研究室体制を構築し、その維持・向上に努める。</p> <p>1. 法令（大学院設置基準等）で定められている要件を満たす教員</p> <p>2. 本専攻の「教育研究上の目的」、「教育目標」及び「3つの方針」を十分理解し、それらに対応する能力と意欲を備えている教員</p> <p>3. 農業工学分野における高い研究業績を有するとともに、本専攻の構成員として各種運営業務に積極的に取り組める教員</p>	<p>教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しています。</p>	<p>資格審査基準等に則り、適切に教員の募集、採用、昇任等を適切に行っています。</p>	<p>農業工学専攻では、平成28年度から29年度にかけて、東京農業大学教育改革推進プロジェクトの採択を受けて、「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト」を実施しています。</p> <p>この取り組みは、農業工学分野におけるグローバルに活躍する学術リーダーの育成を目指したもので、そのグローバル学術リーダーの育成に向けた農業工学専攻の大学院教員の資質向上（FD）に取り組んでいます。</p>	<p>東京農業大学自己教育評価において、定期的に点検・評価に取り組んでいます。</p>
現状説明を踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <p>・なし</p>	<p>【長所】</p> <p>・なし</p>	<p>【長所】</p> <p>・なし</p>	<p>【長所】</p> <p>・なし</p>	<p>【長所】</p> <p>・</p>

	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・農業工学専攻では継続してグローバル学術リーダーの育成を目指しています。そのためにもグローバル学術リーダーの育成に向けた農業工学専攻の大学院教員の資質向上（FD）が必須となっています。しかし、関与の低い教員が存在しています。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・農業工学専攻の全教員が一定の質でグローバル学術リーダーの育成に当たれるように改善することが課題です。	【課題】 ・なし
根拠資料名	・なし	・なし	東京農業大学・大学院 資格審査基準	2017年度 東京農業大学教育改革推進プロジェクト「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト」申請書	農大ホームページ ポータル アンケート

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 造園学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	29年度から博士前期課程1年生から、新カリキュラムを実施し、選択必修科目の履修変更や必修科目「造園学総論」の創設など、専攻内における専門性を高めるとともに、造園学の幅広さと社会的意味など体系的理解の強化を実施した。	研究の進捗状況に応じ、博士前期・後期課程の発表会、検討会、意見交流会を実施し、教員・院生相互の状況把握や問題点の確認などを積極的に取り組めるようにした。	専攻内の教員が十分な成績評価を行い、学位授与に際しては研究発表内容をもとに専攻内会議を実施して、十分な議論のもとに実施した。	研究の進捗状況に応じ、博士前期・後期課程の発表会、検討会、意見交流会を実施し、教員・院生相互の状況把握や問題点の確認などを積極的に取り組めるようにした。また専攻内の教員が院生個々十分な学習成果を把握しており、研究について積極的に学会等での発表、投稿を行わせるように指導している。	授業の実施内容等について、院生との意見交換会などに際し、定期的な点検を実施し、内容を把握し、改善・向上につとめているが、研究環境、特に機材については院生が今まで以上に満足度が向上するような更なる取り組みが必要かと思われる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・造園学の社会的役割の再確認や専門性の深化を実施することができる。	【長所】 ・専門分野の異なる教員・院生からの意見を聞くことができる。	【長所】 ・教員によって評価の視点が多様であり、評価が一面的とならない。	【長所】 ・学位授与方針が明確であるため、学習成果の評価を適切に運用できる。	【長所】 ・定期的な点検を行うことにより、専攻全体の学習状況や研究実績の状況確認が可能となる。
	【特色】 ・造園学のもつ広範な分野の理解とそれに基づいた専門分野の特徴を理解することができる。	【特色】 ・院生自身の専門領域の確認や妥当性を検証ができる。	【特色】 多様な視点からの厳正な評価を行うことができる。	【特色】 ・明瞭かつ公正な評価が行われている。	【特色】 ・院生からの意見等も反映させ、適切性を可能な限り保てるよう努力している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・博士前期課程の新カリキュラムは平成30年度が完成年度のため、継続的な観察と点検が必要である。	【問題点】 ・一部の院生はいまだ研究対象などを十分に特定できない、論文の展開に不安なものもいるなど、専攻内教員だけでは解決が難しい事案もあり、学生への対応強化が大きな問題点となる。	【問題点】 ・異分野の研究の場合、特に学位授与に際しては、検証が難しい場合も考えられる。	【問題点】 ・一部、途中修学困難な状況に陥る学生がみられた。	【問題点】 ・研究環境、特に機材の老朽化については、新年度に新たなものを導入する計画を立てている。
	【課題】 ・新カリキュラムの有効性などについて、院生へのヒアリングなどの点検作業が必要である。	【課題】 ・修学上の問題は、研究環境や健康問題など多岐にわたるケースが考えられ、健康増進センターのカウンセラーなど、関係機関などとの今まで以上の連携も視野に入れる必要性がある。	【課題】 ・発表会、検討会、意見交流会などを通じ、今まで以上に論文の検証を継続的に実施することが必要と考えられる。	【課題】 ・指導教員との間の密な接触が必要と思われるが、専攻内の他教員やカウンセラーなどの専門家との連携も視野に入れる必要性がある。	【課題】 ・機材の老朽化については、継続的な検討を行い、より良い研究環境の確保に努めたい。

根拠資料名					
-------	--	--	--	--	--

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	入試説明会や論文発表会への学部生の参加を促すなど、学生募集の機会と大学院の内容を周知できるように努めた。	I期およびII期の2回にわたる入試時期に、その時の状況等について専攻内教員間で議論を行い、適切性について十分な議論と取り組みを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・早い時期から大学院進学に関する情報をあたえることにより、より意欲の高い学生を確保することが可能となる。	【長所】 ・入試の実施に伴い必然的に検討する機会がある。
	【特色】 ・学部生が早い時期から大学院の専門教育の実態や研究をめざす人材を発掘することができる。	【特色】 ・学力のみならず面接を実施することで、応募者の学生の研究に対する意欲をより適切に評価できるようになる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・I期試験の時期が早いため、受験した学生の研究能力が十分であるかの検証が十分に実施できていない可能性が考えられる	【問題点】 ・近年、留学生の応募者や受験相談者も少なくなく、研究能力が十分であるかなどの検証が難しい時が見受けられる。
	【課題】 ・現状では定員枠を下回っているが、研究能力や学習能力を十分に検討し、入学定員を如何に確保するかが大きな課題と言える。	【課題】 ・受験希望者に対しては、可能な限り複数回、対面式で早い時期から相談などを行い、研究能力や修学の意味確認などをより密に実施することが重要かと思われる。
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本専攻の教員組織の編制方針は、大学HPに公開し、学内外に広く周知している。	専門分野ごとに、適切な人材が配置されるように努力している。	本年度は授業担当者として新たに1名を採用し、また来年度は指導准教授として1名の昇格予定である。	異なる専門分野の人員配置については現状バラツキがあるため、組織的な対応が行われているとはいえない面も認められる。しかし、本年度は授業担当者として新たに1名を採用し、また来年度は指導准教授として1名の昇格予定など、組織の充実・改善に努めている。	必ずしも定期的な点検は行っていないが、現在学部人事が進行しており、その際も適切な組織体制の維持・構築に向けて検討を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・複合的な専門指導体制が構築できる。	【長所】 ・学部における教員編制が充実すれば、それに伴って大学院の組織も充実する。	【長所】 ・優秀な教員の採用、昇格に伴い教育研究活動を展開することが可能となる。	【長所】 ・昇格者は内部からであり、専攻内の状況に熟知しており、今後の組織の充実・改善にも適切な対応が可能である。	【長所】 ・学部における教員編制が充実すれば、それに伴って大学院の組織も充実する機会が増大する可能性がある。
	【特色】 ・専門性の異なる人材の配置で多様な教育・研究体制を構築可能である。	【特色】 ・新たな教員確保に伴い、大学院教育の充実が図れる。	【特色】 ・優秀な教員の採用、昇格に伴い専攻内の教育研究活動が活性化される。	【特色】 ・学部生からの継続的な指導体制を整えることができる。	【特色】 ・現状における人材確保の予定分野が明確である。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・今後専攻内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	【問題点】 ・今後専攻内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	【問題点】 ・指導体制が整備されつつあるが、今後専攻内の教員数を十分に確保することが困難な場合が想定される。	【問題点】 ・今後、内部昇格の数と時期を適切に考え、組織の充実・改善を検討する必要がある。	【問題点】 ・人材を補充すべき分野は明確ではあるが、的確な有資格者を確保するに至っていない。
	【課題】 ・大学院指導教員の資格を有する教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要がある。	【課題】 ・大学院指導教員の資格を有する教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要と共に人材導入も含め、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	【課題】 ・大学院指導教員の資格を有する教員確保に向けた、研究環境の充実を図る必要と共に人材導入も含め、新たな人事体制を構築する必要性が考えられる。	【課題】 ・今後の学部人事の編制に際しても大学院組織と連携した人事体制を構築できるよう検討が必要である。	【課題】 ・今後の学部人事の編制に際しても大学院組織と連携した人事体制を構築したい。
根拠資料名					

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 国際農業開発学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	教育課程の編成方針にしたがい、自然科学と社会科学、必修科目と選択科目、座学と実験・演習、フィールド調査などを適切に開設し、体系的に編成している。	各年度に2回、専攻合同の院生発表会を開催し、すべての院生が研究計画発表・中間発表・最終発表をおこなっている。	成績評価および単位認定は各科目の評価責任者が指導実施記録にもとづいて適切におこなっている。学位授与については、院生発表会における最終発表のあとで学位論文を審査する選考会議において判定している。	院生発表会におけるプレゼンテーションと学位論文によって、院生の学習成果を適切に把握し、相応の評価を実施している。	研究科のとりくみとして前・後学期に院生による授業評価をおこない、その結果に応じて専攻としての改善計画を研究科に提出している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・自然科学系科目と社会科学系科目を必修科目とすることにより、分野横断的な教育が実現されている。	【長所】 ・専門分野のことなる教員や院生を前にプレゼンをおこなうことにより、みずからの研究内容や研究姿勢を客観的に把握することができる。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・ほかの大学院・専攻にはないマルチディシプリナリーなカリキュラムとなっている。	【特色】 ・専門分野のことなる教員・院生が一堂に会し、共通のテーマでディスカッションをくりひろげている。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、実験・演習への対応が不十分となっている。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、院生発表会に参加できる時間がかぎられたものとなっている。	【問題点】 ・各学期の授業終了から成績評価提出までの期間がみじかく、提出されたレポートなどを評価する時間が十分にとれない。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、院生と個別に対応する時間が相対的にみじかくなっている。	【問題点】 ・本専攻は全院生のほぼ半数を留学生がしめているが、研究科の作成する授業評価では、留学生にはわかりにくい項目や mismatches な設問が散見される。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	国際農業開発学専攻 3 方針_161209			国際農業開発学専攻 3 方針_161209	

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	年2回の入試でそれぞれ入試説明会を実施するとともに、ウェブなどを利用して過去の入試問題を公開するなど、学内外からの受験者に配慮した説明をおこなっている。入試においては各専門分野からの出題と複数担当（自然科学系および社会科学系）による英語問題の出題など、分野横断的な教育方針にそって筆記試験を実施している。口述試験は専攻内の全指導教員が担当し、各専門分野の観点から試問をおこなっている。また、留学生の増加に対応して筆記試験・口述試験とも日本語・英語のバイリンガルで実施している。	年2回の院生発表会でのプレゼンテーションで、院生の研究に対する取組みを評価している。また個別の問題に関しては必要に応じて専攻会議で採り上げ、専攻教員間で情報共有を図るとともに、改善策を随時検討している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・2期入試の時期が後学期の学位論文審査の時期に近接しており、入試業務にあたる一部の教員に過重な負担を強いている。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、専攻会議の開催に支障をきたしている。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	国際農業開発学専攻3方針_161209	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	国際農業開発学専攻における教員組織の編成方針として「農業開発や国際協力にかかわる自然科学および社会科学にわたる領域での高度な研究を遂行しうる卓越した研究室体制と同領域における基礎から専門にいたる知識と実務能力をかねそなえた人材の育成を目標とした教育体制を構築し、その維持・向上に努める」と明示している。	各専門分野(研究室)に指導教授を配置し、院生の研究指導にあたっている。授業においては指導教授にくわえて授業担当教員を配置し、教育・研究活動を展開するための適切な教員組織を編成している。	専攻のすべての指導教員と授業担当教員が出席する専攻会議において、人事計画が審議・決定されている。教員の募集、採用、昇任等は大学の規定にそって適切に行われている。	教員の資質向上は基本的に個人の努力に帰すべきものであり、専攻としては各教員が研究や自己研鑽に十分な時間をさけるよう、組織的かつ多面的な配慮をおこなっている。	専攻のすべての指導教員と授業担当教員が出席する専攻会議において、教員組織の適切性について随時検討をおこなっている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、全体として大学院での教育・研究活動にさける時間が近年減少している。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、研究や自己研鑽にさける時間が十分とれていないのが現状である。	【問題点】 ・専攻において教員組織の適切性について検討をおこなっても、トップダウンによる組織改編や補職人事がしばしばあるため、実際の運営に反映することは困難である。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	国際農業開発学専攻 3 方針_161209				

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農業経済学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>・農業経済学専攻では、具体的なカリキュラムポリシーとして、以下のように定めて教育課程を編成している。</p> <p>(1)「農業経済学、農政学、食料経済学を基幹科目として配当し、修士論文作成のために、問題意識の醸成や研究方法・調査技術の修得が行えるよう特論および演習を必修科目として配当する」。これに対して、農業経済学、農政学、食料経済学の各特論と特論演習を配置し、大学院生はそれぞれの専門分野をセットで履修するよう指導している。</p> <p>(2)「指導教授または指導准教授や論文指導教員以外の多様な研究方法や研究視点を学べるよう選択科目を配当する」。これに対し、上記の特論・特論演習科目のうち、専門以外の分野の科目を、研究計画や関心に応じて履修できるようにしている。</p> <p>(3)「プレゼンテーション能力や議論の能力を高めるため、必修科目として総合演習を配当する」。これに対し、農業経済学総合演習（前期課程）および農業経済学研究総合演習（後期課程）を開設している。</p> <p>(4)制度的な枠組みを学ぶため、農業法に関する科目を配当する。これに対し農業法特論Ⅰ・Ⅱを開設している。</p>	<p>・入学時および進学時の4月にガイダンスを行い、大学院生としての心構え、必要な手続きなどを説明している。</p> <p>・大学院生の論文を指導教員以外の教員の査読を経て掲載する学術雑誌『農経研究報告』を発行している。平成29年度の詳細については「包括的 point 検・評価報告書」を参照。</p> <p>・大学院生の研究室を13号館と18号館に各1室設置している。それぞれ学生どうしで交流が図れるようにしている。</p>	<p>・成績評価について学生が説明を求める場合は科目担当教員が面談等を行う。</p> <p>・総合演習の評価及び学位認定については、専攻全教員が参加する専攻委員会で判定している。総合演習の評価については1月24日の、前期課程の学位認定については2月19日、後期課程の専攻内における審査報告会は2月22日、その実施記録の承認については2月26日の各専攻委員会でいった。</p>	<p>・農業経済学専攻では、前期課程では、食料、農業、環境の農業経済学的側面にかかわる知識、農業経済学および関連分野において、研究者、教育者あるいは専門家として活動しうる能力、図表を効果的に利用しながら文章で適格に表現して、情報発信する能力等をディプロマポリシーに掲げている。後期課程では、農業経済学の専門領域における高い専門性を保証する国際的なレベルでの高度な知識、体系的に情報を整理し、論理的思考に基づく研究能力、食料問題・農業問題・環境問題等の解決に向け、リーダーシップ能力等を掲げている。これにもとづき、前期課程については、修士論文の中間報告会を3回、最終報告会を1回開催している。後期課程については、博士論文の中間報告会を3回、最終公開報告会を1回開催している。このなかで、指導教員以外の教員から、多角的にアドバイスを得ながら、必要な知識・能力・態度を身につけられるようにしている。さらに後期課程の最終学年においては、副査予定者が博士論文の研究指導者となり、上記の項目水準を満たせるよう指導体制を整えている。</p>	<p>・学生に対するアンケートに基づき、点検・評価を行うとともに、改善計画を立てて、向上を図っている。</p>

平成29年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式1

現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 農業経済学に関連した幅広い分野を学ぶことができる。	【長所】 1科目あたりの受講生が少ないので、受講生に合わせてきめ細かな授業を行っている。	【長所】 総合演習の評価・学位認定については、合議に基づいており公平である。	【長所】	【長所】 少人数で学生一人ひとりに応じた指導が可能となっており、比較的学生の満足度が高くなっている。
	【特色】 なし	【特色】 受講生に合わせて、英語または英語・日本語のバイリンガルでも授業を行っている。	【特色】 日本語のほか、英語での修士論文・博士論文の提出を認めている。	【特色】	【特色】
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】	【問題点】
	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】 なし	【課題】	【課題】
根拠資料名	・カリキュラムポリシー ・シラバス	・ガイダンスの配付資料 ・『農経研究報告』の各号	・学生の成績 ・専攻委員会議事録	・各報告会の資料 ・審査報告並びに審査報告会実施記録	・教育評価の結果を踏まえた課題の抽出と改善計画書

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	<p>・農業経済学専攻博士前期課程では、具体的なアドミッション・ポリシーとして、経済学に関する基本的な学力、専門領域における知識や研究方法の基本的な学力、日本人は英語、外国人は日本語の基本的な語学力、食料問題、農業問題、環境問題に強い関心を持ち、社会科学の方法によって問題解決に貢献しようとする強い意欲を求めている。これに対し、前期課程の学力試験については、基礎的科目・専門科目として、経済学・農業経済学・農政学・食料経済学から2科目を選択、語学については英語又は日本語から選択できるようにし、外国人留学生の場合も第一言語が英語以外の場合は、英語又は日本語から選択可能としている。また、専攻の全教員が参加する口頭試問で受験生の意欲を判断している。後期課程については、専門領域における知識や研究方法、第二言語として英語または日本語のより高度な運用能力、研究資料を得るためにコミュニケーション能力を有するとともに、それらを緻密に整理できる能力、食料問題、農業問題、環境問題に強い関心を持ち、社会科学の方法によって率先して問題解決に貢献しようとする強い意欲を求めている。これに対し、学力試験については、専門科目として、農業経済学・農政学・食料経済学から1科目を選択、語学については英語又は日本語から選択できるようにし、外国人留学生の場合も第一言語が英語以外の場合は、英語又は日本語から選択可能としている。また、専攻の全教員が参加する口頭試問で受験生の意欲のみならず、修士論文等の作成状況などを問うことで、受験生の能力を判断している。</p> <p>・学生募集については年3回説明会を開催し、アドミッション・ポリシーを用いながら、とくに外部からの進学希望者については丁寧に説明している。</p> <p>・個別の学力試験の採点結果は複数の教員が確認するとともに、専攻委員会で公正に選抜している。</p>	<p>・専攻委員会で入試科目やアドミッション・ポリシーの適切性について点検・評価を行い、数年に1回の割合で改善を図っている。ただし、平成31年度入試については従来通りとなった。</p> <p>・現在、学生の在籍者数は定員を満たしていないが、反面きめ細かい指導が可能となっている。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・留学生や社会人の受験希望者が比較的多い。	【特色】 ・

平成29年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式1

<p>現状説明を踏まえた</p>	<p>【問題点】 ・受験生の数が低迷している。</p>	<p>【問題点】 ・</p>
<p>問題点及び次年度への課題</p>	<p>【課題】 ・内部進学者を増やすために、学部のゼミや研究室を通じて、大学院進学具体的なイメージを持ってもらう必要がある。</p>	<p>【課題】 ・新専攻の分離に伴い、一部見直しが必要になるかもしれない。</p>
<p>根拠資料名</p>	<p>・試験問題及び解答用紙 ・専攻委員会議事録</p>	<p>・専攻委員会議事録</p>

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・教員組織の編制として、下記のような方針を定めている。 本専攻は以下の要件を満たす教員で組織する。編制にあたっては、農学研究科の教員組織の編制方針を踏まえるとともに、農業・食料・環境の諸問題に対して経済学をはじめとした社会科学の手法を用いて多様な研究・教育を展開しうる研究室体制と社会科学の特性を踏まえた教育体制を構築し、その維持・向上に努める。 1. 法令（大学院設置基準等）で定められている要件を満たす教員 2. 本専攻の「教育研究上の目的」、「教育目標」及び「3つの方針」を十分理解し、それらに対応する能力と意欲を備えている教員 3. 農業経済学や関連社会科学分野における高い研究業績を有するとともに、本専攻の構成員として各種運営業務に積極的に取り組める教員	・農業経済学専攻は、学科再編に伴い、食料環境経済学科と国際食農科学科に所属する教員で構成している。食料環境経済学科の6研究室および国際食農科学科の2研究室を編成し、各研究室原則として3名の教員で構成されている。平成29年度は、指導教授13名、授業担当教員6名となっており、男性16名、女性3名である。現在欠員になっている研究室があるため、平成31年度に向けて、早めに食料環境経済学科と連携して公募を開始し、教員の授業などの負担の軽減を図るとともに、指導体制の充実を図っている。	・新規教員の募集・採用については、食料環境経済学科と一体的に行っている。募集はすべて公募によって行い、本学および科学技術振興機構のホームページ等で公募情報を公表している。採用・承認については、大学の基準に従い、専攻委員会で審議を経て公平かつ適切に行っている。	・各研究室の中で指導教授などが新任教員や若手教員にアドバイスを行い、資質向上を図っている。また、平成29年7月と平成30年1月に全学的に行っているFDフォーラム、公的資金の利用管理に関する講習会、ハラスメント講習会などに各教員は参加し、資質向上を図っている。	・教員の研究室体制については、時代の変化や研究・教育上の効果を鑑みて、数年に一度、関係教員全員で検討を行い、研究室の再編を行ってきた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・社会科学の特性をいかし、学生は研究室の枠を越えて幅広く助言を受けられる。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし

平成29年度 基礎的事項に関する点検・評価報告書

様式1

年度への課題	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・新専攻の分離に伴う組織体制の検討。
根拠資料名		・専攻委員会議事録	・専攻委員会議事録 ・学科会議議事録	・各講習会等の参加名簿	・専攻委員会議事録 ・学科会議議事録

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 国際バイオビジネス学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	海外の農業や農産物流通にかかわる基礎科目および食・農・環境ビジネスに関する専門科目を配置するとともに、研究能力やプレゼンテーション能力などを実践的かつ体系的に修得するためのカリキュラムを編成している。	調査・研究能力の向上を図るため、学期ごとに調査研究成果報告会を実施している。	成績評価と単位認定は、農学研究科の評価基準に従って行っている。また、学位授与は、原則として全教員が参加する学位論文報告会を開催し、そこでの評価結果および完成論文を審査した上で行っている。	各学期において、大学院生の成績表を当該学生の指導教員を通じて配付することによって、取得単位数と成績内容を指導教員が把握している。また、調査研究成果報告会を通じて、個々の学生の総合的な研究能力が把握できている。	今年度は、主任と主事の任期終了に伴い、これまでの専攻における教育・指導体制および学生に対する評価方法等について問題点や課題を列挙した。次年度以降、これらの問題点や課題を解決するための方策を検討し、準備のできたものから順次実施していく。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 食・農・環境ビジネスの理解やその調査・研究に必要な知識や能力が身につく。	【長所】 調査・研究能力の向上に加え、プレゼンテーション能力が身につく。	【長所】 成績評価、単位認定及び学位授与の客観性が保たれている。	【長所】 調査研究成果報告会での学生評価は、総合的な研究能力を把握する上で重要である。	【長所】 任期期間中に把握した問題点や課題を整理して次期担当に引き継ぐことができる。
	【特色】 ゼミ形式による少人数教育で、個々の大学院生に応じたきめ細やかな教育を行っている。	【特色】 留学生も多いので、英語での報告や質疑応答もある。	【特色】 特になし。	【特色】 特になし。	【特色】 特になし。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。	【問題点】 授業等の関係で、参加できない教員もいる。	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。
	【課題】 国際バイオビジネス学科の再編に伴い、今後、それを踏まえた見直しが必要となっている。	【課題】 報告・討議内容を、各人の今後の調査・研究活動の進展へどのようにつなげるかが課題となっている。	【課題】 論文報告および完成論文の審査をより客観化できるよう、点数化評価を試みている。	【課題】 専攻内での調査研究成果報告会だけでなく、学会での口頭報告を積極的に行わせるよう、検討する必要がある。	【課題】 整理した課題に対して、できるだけ早く対応方策を検討する必要がある。
根拠資料名	国際バイオビジネス学専攻カリキュラム	報告会資料	成績評価並びに修了判定資料等	報告会資料	専攻会議資料

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学生募集や入試にかかわる情報は、本学の Web ページにおいて公開されており、全受験者に公正提供できている。また、願書提出方法や奨学金情報にかかわる詳しい説明、さらには個々の志願者の質問への回答などのため、願書提出前に専攻単位の入試説明会を実施している。	学生の受け入れの適切性について特に定期的な点検・評価は行っていないが、問題がある学生が入学してしまったような場合は、必要に応じて関係教員が協議し、学生に対する教育指導を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 学内受験者と学外受験者に対して同等の対応がなされている。	【長所】 特になし。
	【特色】 特になし。	【特色】 学生指導では、指導教員と副指導教員による複数教員による教育指導態勢を採用している。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし	【問題点】 特になし。
	【課題】 試験問題に関しては記述式が多いため、できる限り客観的な採点ができるようにする必要がある。	【課題】 問題のある学生の早期発見が課題となっている。
根拠資料名	本校大学院学生募集要項、本学 Web ページ	特になし。

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	「食・農・環境にかかわるビジネスの経営、マーケティング、情報の各分野における高い研究業績を有するとともに、本専攻の構成員として各種運営業務に積極的に取り組める教員によって、教員組織を編成する」との方針を作成している。	「教育研究上の目的」「教育目標」「3つの方針」に従い、経営、マーケティング、情報分野等にかかわる適切な教育研究活動を展開するための教員組織を編成している。	教員組織の編成を踏まえたうえで、本学の基準に則り、教員の募集、採用、昇任等を適切に行っている。	科研費等を利用し、専攻内教員同士や他大学教員との間で共同研究を行うことによって、教員の資質向上を図っている。	教員組織の適切性の点検・評価は、現在は欠員が生じたときにおける時点で、教員の教育研究にかかる専門性、教員間の年齢構成、職位のバランス等を考慮しながら改善・向上を図っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 教員組織の編制に関する方針に則った対応をしている。	【長所】 教育研究活動を展開するための適切な教員組織が編成できている。	【長所】 適切な教員の募集、採用、昇任等が行われている。	【長所】 教員間の研究内容の相互理解を図ることができる。	【長所】 研究室単位では、各教員の専門性、年齢、職階が適切である。
	【特色】 専門性、教育者倫理を備えた教員を確保している。	【特色】 3つの専修分野を軸にした適切な教員組織が編成できている。	【特色】 研究室内の職階と年齢構成は適切に配置されている。	【特色】 研究方法やシーズの広がりにつながる。	【特色】 特になし。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。
	【課題】 特になし。	【課題】 特になし。	【課題】 嘱託教員の先生が退職された場合の対応を検討しておく必要がある。	【課題】 特になし。	【課題】 指導教員の人数をできるだけ、増やす必要がある。
根拠資料名	特になし。	本学の大学院案内、本学Webページ	本学の人事関係文書	特になし。	特になし。

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 環境共生学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> している <input checked="" type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 講じている <input type="checkbox"/> 一部講じている <input type="checkbox"/> 講じていない	<input type="checkbox"/> 行っている <input checked="" type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	生物学、資源学および地域学を基礎とし総合的・複合的科目を通して、学位授与のための教育課程を編成し、各指導教授が研究手法を通じて研究発表能力および博士論文執筆等を体得できるように教育している。	定期的に行われる専攻会議において、各指導教授から、院生の研究進捗状況の報告を実施してもらい、問題がある場合、教員相互で意見交換を行い対策を立てている。	指導教授に対する院生への研究・教育指導を密に実施し、在籍3年目には、学位授与ができる体制を整えている。平成29年度は、3年生院生のなかで病気療養者が出てしまい、院生の研究が停滞し、学位申請ができないケースがあった。	自然・社会・人文科学を基礎とした総合科学分野の高いレベルでの研究能力を備え、環境共生型社会の実現のために社会貢献できるような研究に対して学位授与ができるよう実施している。	専攻会議および各専攻教員が定期的に点検・評価をし、改善・向上に務めている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 様々の社会人院生が在籍するため自然・社会・人文科学が融合した総合科学分野からの視点で研究ができる。	【長所】 ・ なし	【長所】 ・ 社会人院生に対して、授業以外の場面でも、指導教授がメール等で綿密に研究発表および学位論文作成の指導をし、成果を上げた。	【長所】 ・ 年2回のスクーリング授業を通して、院生相互の研究、教員の講演などにより学位授与方針に則った体制を整えている。	【長所】 ・ なし
	【特色】 ・ 環境共生に関する総合的・複合的な視野をもち高度な研究能力を有する人材を養成できる。	【特色】 ・ なし	【特色】 ・ 年2回スクーリングによる研究発表会を実施しているため、専攻全体の教員が常に院生の研究を把握し、多角的に助言できる。	【特色】 ・ 本専攻の教員は、自然・社会・人文科学の多方面から優れた教員が集まっており、院生に対して様々な角度から研究指導ができる。	【特色】 ・ なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 社会人院生のため、指導教授との相談は密であるが、院生同士の研究交流の機会が少ない傾向にある。	【問題点】 なし	【問題点】 ・ 平成29年度は、3年生院生のなかで病気療養者が出てしまい、院生の研究が停滞し、学位申請ができず留年した。	【問題点】 ・ なし	【問題点】 ・ なし
	【課題】 ・ 研究発表スクーリング等の機会を増やし、院生同士の交流を密にする。	【課題】 ・ 現状の継続	【課題】 ・ 29年度に留年した院生については、30年度学位取得に向け、指導教授を中心に専攻全体でバックアップしていく。	【課題】 ・ 現状の継続	【課題】 ・ 現状の継続
根拠資料名	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	大学ばかりでなく、専攻独自特色あるホームページから、とくに社会で活躍している経験と知恵と研究力を博士学位取得につなげる指導体制を整えていることをPRし、社会人特別選抜という入試制度を活用して、働きながら3年間で学位取得できることを実施してきた。さらに、仕事の関係で3年間では取得ができない院生には、入学当初から長期履修制度により対応できるように体制を整えており、順調に実施している。また、専攻の個々の教員も積極的に学生募集を行っている。	定期的実施している専攻会議において、常に院生確保について教員相互で情報交換を行い、入学希望者に対して、事前に、研究体制として専攻内での研究指導教員の紹介と研究の方向性を指導した上で、入学試験が受験できるようなシステムを構築している。また、指導教授の他に、補助的に専門性をもつ他専攻の教員の指導も協力していただける体制を整備し、適切に学生が受け入れられている。その結果、平成30年度受験生は6名（定員5名）で全員合格した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・とくに、社会人選抜試験入試制度を主体として、働きながら3年間で学位取得できること指導体制を実施していること。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・専攻独自のホームページから、とくに社会人選抜入試での学位所得のシステムがあることを明記していること。	【特色】 ・入学前、事前に綿密な相談・研究計画の指導をしているため、スムーズに大学院在籍中の研究活動が実施できる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・現状の継続	【課題】 ・現状の継続
根拠資料名	特になし。	特になし。

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> している <input type="checkbox"/> 一部している <input type="checkbox"/> していない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない	<input type="checkbox"/> つなげている <input checked="" type="checkbox"/> 一部つなげている <input type="checkbox"/> つなげていない	<input checked="" type="checkbox"/> 行っている <input type="checkbox"/> 一部行っている <input type="checkbox"/> 行っていない
点検項目に対する 現状説明	本専攻は、自然科学・社会科学・人文科学と広い研究分野の院生を指導する体制を整備するため多方面の教員を配置している。しかし、退職者等の補充がうまくいかない面もあり、現在の生物・資源・地域学の分野の教員確保が大変の時期にきている。	本専攻における自然科学・社会科学・人文科学のバランス良い指導体制を確保するため、教員の研究分野の見直しを行い、分野配置の再編成をおこなった。	平成29年度は、指導教授・指導准教授を増員するため、2名の授業担当教員が指導教授に申請し、平成30年度から昇格した。	専攻主任から、授業担当教員には、常に近々研究業績をつくることを指導助言し、指導教授・指導准教授を確保することに努力した。また、学内において、大学院を指導していない教員に対して、本専攻の指導を依頼する働きかけを行ってきた。	定期的な専攻会議において実施している。平成30年度退職教員に対する研究指導体制の見直し等を行った。とくに、平成29年度退職教員が指導する院生が留年することにとまない、指導教員の変更を実施し、平成30年度学位取得がスムーズにできるよう配慮した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・一つの研究内容について、多方面からアドバイスが可能である。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・自然・社会・人文科学の広い分野での指導教員の受け入れが可能であること。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・環境共生学の分野において、広く自然、社会・人文と多方面で指導できる。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・現在の生物・資源・地域学における各分野の教員確保が困難になってきている。	【問題点】 ・今後の大学院の改組を考えると、各分野の教員の人員確保が困難になる可能性が考えられる。	【問題点】 ・授業担当の若手の教員が少ない傾向にあり、今後の指導体制で人員不足になる不安がある。	【問題点】 ・様々な環境共生学の研究分野に対応できる教員確保が困難な状況である。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学内および学外からの環境共生学に関する研究指導できる教員を確保し、バランスの良い指導体制を確保する。	【課題】 ・今後の大学院改組を考え、分野等の再編成や教員の増員の確保が必要である。」	【課題】 ・新任教員や学内から若手の教員を授業担当教員もしくは研究指導補助教員に採用し、今後の指導体制を確保する。	【課題】 ・今後も、現状で実施している教員確保に努力していく。	【課題】 ・なし
根拠資料名	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。	特になし。

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	学部との教育連携方法の検討
実行サイクル	5 年サイクル (平成29年～33年)
実施スケジュール	大学院授業科目について、学部での関連授業科目との連続性を意識した授業内容の実施を検討するとともに、シラバスにおいてそのことを具体的に表現した記述を行う。
目標達成を測定する指標	毎年のシラバスの改定に際して順次学部と授業との連続性を意識した表記を心掛ける。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学部での授業については基本的に導入的なものが多く、未知の領域に対して興味を抱かせるためのものであることが多い。したがって、より詳細な内容等に関しては後回しになる傾向が強く、深く内容を掘り下げる前に卒論研究等に取り組んでしまうため、専門分野についての広く深い理解が不足する傾向がある。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・現在の学部教育では、以前に比べると授業科目数が減少しており、専門教育のレベルが低下した感がある。このような中、学部学生が専門分野に関する知識技術の積み上げを具体的にみられるようになり、学部段階から徐々にステップアップさせ、大学院進学に際しての障壁を低く感じられるようになる。 【特色】 ・大学教育が4年で完了とするのではなく、より多くの学生が6年一貫的教育を受けることが可能となる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・ステップアップの中で現場の問題等に触れる場合など、内部の教員だけでは指導が困難な場合もある。外部の専門家等の参加が容易に行えるような体制づくりが必要である。 ・学部再編により学科体制が変わり、それに伴って学部のカリキュラムが変更された。学部カリキュラムに大きな変更はなかったものの、学部共通必修科目に見られるような、これまで以上に導入的な要素が多く含まれる科目構成となり、大学院科目との連続性という意味からはやや遠ざかる傾向がみられる状況になってしまった。 【課題】 ・学部教科目との連続性を図るためにはシラバスの見直しを行い、導入部からの連続性についてより配慮した内容としていく必要があるが、今後数年を経ずして大学院の組織改編も予想される中、大きな変更を行うことにはややためらいを感じざるを得ない。
根拠資料名	

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	博士研究員制度の導入検討
実行サイクル	5 年サイクル (平成29年～33年)
実施 スケジュール	博士課程進学者を増加させるとともに、それに付随して課程修了者の中から順次博士研究員を確保する。また外部の適格者についても採用できるように検討する。
目標達成を測 定する指標	専攻内のいずれかの研究室（できれば複数）に博士研究員が在籍する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	現状、学部学生教育においてティーチングアシスタント（TA）制度という大学院生を活用する制度はあるが、実質的には単なる教育補助的な役割にとどまっている事例が多く、TAとして本格的な授業を行うに際しての研鑽はあまり行われていない。博士研究員は専門分野における高度な知識と技術を有しており、当の本人の研究はもとより、本来教員が対応すべきレベルの研究教育指導を行える可能性も高い。本年度、後期課程在終了年次に当たる学生が1名いたが、残念なことに3年で研究を修了することができず留年扱いとなってしまった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特定の専門分野について最新の知見や技術を有している者が研究教育に関与することにより、大学院や学部における研究教育レベルの向上が図れる。また比較的中長期的な研究にも対応できる。
	【特色】 ・博士研究員が大学院や学部レベルにおいて高度な教育研究指導を行うことにより、自身のキャリアアップを図ることができる。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・博士研究員としては外部からの優秀な人材を確保することも必要であるが、現在内部の博士後期課程に在学する大学院生を育てる必要がある。
	【課題】 ・博士研究員の供給元である後期課程大学院生については、本学の奨学金制度の充実のせいか、連続的に人数を確保することに成功しており、特に本年度行われた入学試験においては、入学枠を満たす5名という大量の大学院生を確保することができた。これら若く意欲のある院生をしっかりと教育し、次年度以降本目標の達成ができるようにしていく必要がある。 ・後期課程の大学院生が多数入学してきたことは評価に値されることであるが、残念ながらややその専門分野に偏りが認められる。今後さらに幅広い分野において後期課程大学院生を確保できるよう、前期課程やさらには学部レベルでの教育において、進学意欲が高められるようにしていく必要がある。
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	連続して入学定員以上の入学者を確保する	新たな制度の導入によって定員枠が2倍以上に増大した推薦入試について。入学者確保に果たす役割を検証する
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～31年）	3年サイクル（平成29年～31年）
実施スケジュール	平成29年度内に実施される入学試験から始めて、毎年入学定員以上の入学者を確保する。入学試験の種類には推薦、一般（I期およびII期）があるが、個々の入試の枠にはとらわれず、全体を通して入学定員枠以上の入学者を獲得できたかどうかを検証する	平成29年度実施試験から推薦入試の実施方法が変わり、これまでに比べてより多くの優秀かつ研究意欲の高い学生を早期に確保すべく、入学定員枠を大幅に増加させた。この入学定員枠をどれだけ維持できるかを検証する。
目標達成を測定する指標	個々の実施年度における入学者数が少なくとも3年間連続して入学定員以上となること。	本専攻の推薦入試志願者数が、推薦入試定員枠を3年間連続して満たすこと。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	本年度の学者数は、前期課程については16名と定員枠である14名を超える結果となった。また例年定員枠を下回ってきた後期課程についても、5名の枠を満たすことに成功した。特に本年は推薦枠が拡大したことによる効果が非常に大きく、前期課程についてはI期試験終了時点ですでに定員枠を超える結果となった。研究目的が明瞭であり意欲のある学生については、このような形で早期に確保しておくことが重要であると考えられた。	本年度から定員分枠が拡大された推薦入試であったが、説明会にはそれをはるかに超える学生が集まり、実際に枠を超える希望者が存在することが確認されるとともに、志願時点において定員枠をしっかりと満たすことができ、初年度の目標を達成する形で終了することができた。この状況が次年度以降も継続していくことが期待される。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・毎年定員枠以上の入学者を確保することにより、種々の研究テーマの継続性を保つことができ、そのレベルの維持・向上が図れる。	【長所】 ・学部在学の早い段階から専門レベルの指導を受け、その後の研究遂行に対して高い意欲を示す学生を早期に確保することにより、その後の大学院での研究テーマを継続的に実施することができる。
	【特色】 ・長期的な研究テーマをもつことにより、そこに派生してくる新たな問題を解決するため、幅広い研究テーマを生み出すことができる。	【特色】 ・長期的な研究テーマをもつことにより、そこに派生してくる新たな問題を解決するため、幅広い研究テーマを生み出すことができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・大学院入学志望者数は、その時々を経済的な状況に大きく左右され、特に昨今のように好景気が続いている中では、学部卒業時点で優良な就職先を確保できることも多く、敢えて進学というリスクをとる必要性が失われてしまうことがある。そんな中、本学の奨学金制度の充実が極めて大きな効果を発揮していると考えられ、その具体的成果は後期課程進学者5名という結果に示されていると思われる。 ・定員枠の確保は極めて重要な課題ではあるが、そのことにこだわるあまり不適格者を入学させてしまう可能性も考えられる。入学者選抜は慎重に行われるべきである。	【問題点】 ・本年度は極めて順調に推移したが、定員枠の半数という数はそれほど小さな数字ではない。就職状況が好調を維持する中、優秀かつ意欲の高い学生をこの入試枠に向けて確保し続けることは必ずしも容易ではない。専攻内の各教員には不断の努力が求められる。
	【課題】 ・大学院に進学し、さらなる教育研究の指導を受けることによって、学部卒業レベルでは到達できないより魅力的な進路を得ることができる実例をしっかりと示せるように、教育研究だけでなくキャリア教育を行うことが必要であり、そのためには教員サイドだけでなくキャリア課等事務方からの協力も求められる。	【課題】 ・指導教授が個々に独立して指導を行うだけでなく、関係する分野の指導教授以外の他の教員も含めた研究室全体での複数による指導を行うことなどによって細やかな研究教育指導体制を確立し、学部在学中から大学院修了時点を見据えた長期的な指導を行うことが求められる。
根拠資料名		

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 畜産学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	大学院進学率の向上を目指した推薦入試制度の導入および定着	大学院生と専攻教員の相互コミュニケーションの構築	総合的な議論能力の練成
実行サイクル	<u>3</u> 年サイクル (平成 29年～ 31年)	<u>3</u> 年サイクル (平成 29年～ 31年)	<u>3</u> 年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施スケジュール	平成 29年 5月 畜産学専攻 推薦入試説明会 平成 29年 6月 畜産学専攻 推薦入試実施	半年に1回の頻度で、畜産学専攻全体での研究進捗プレゼンテーションの機会を設定する。専攻の教員全体で大学院生の研究の進展および生活状況を把握することで、学生への教育の質的向上や改善が可能になる。 平成 29年 7月 大学院研究進捗発表会 平成 30年 1月 大学院研究進捗発表会	大学院生を国内外の学会、研究会、勉強会や現地調査等に同行させ、他研究者や大学院生との議論能力・コミュニケーション能力の向上を図る。 平成 29年度 国内外の学会、研究会、勉強会や調査等参加 (日程は各教員および大学院生でそれぞれ検討)
目標達成を測定する指標	推薦入試制度を利用した畜産学専攻への大学院進学者数 (目標：大学院入学定員数の充足)	・畜産学専攻所属の大学院生および教員参加数 (目標：25名) ・畜産学専攻以外の学生および教員参加数 (目標：10名)	学会、研究会、勉強会、現地調査等に参加した大学院生数 (目標：大学院生が2年に一回程度の頻度で参加)
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	設定した推薦入試の入学定員6名を確保した。	畜産学専攻所属の全大学院生が参加し(28名)、専攻所属の教員も多数参加した研究進捗発表会を開催できた。本専攻以外の学部学生なども10名以上参加した。	目標設定年度であるが、半数以上の大学院生が様々な学会や研究会等に参加し、研究発表することができた。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・早期に大学院進学者を確保できる	【長所】 ・学生への教育の質的向上や改善が可能になる	【長所】 ・学生の研究能力や意識向上が可能になる
	【特色】 ・推薦入試対象学生において、早期から大学院に向けた意識変化がおきる	【特色】 ・本専攻所属以外の学生も自由に参加が可能である	【特色】 ・外部の研究者や大学院生との接点を持つことができる
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・学会や研究会に参加できていない大学院生が存在する
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・指導教員の積極的な指導の下、在学期間中に学会等に参加させる
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	大学院生の研究レベル高位平準化	大学院生主体の研究論文・学会発表数の増加
実行サイクル	___3___年サイクル (平成 29年～ 31年)	___3___年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施 スケジュール	半年に1回の頻度で、専攻全体での研究進捗発表会の機会を設定する。専攻の教員全体で大学院生の研究の進展および内容を議論することで、学生の研究レベルの向上や改善が可能になる。 平成29年7月 前期大学院研究進捗発表会 平成30年1月 後期大学院研究進捗発表会	大学院生が実施した研究を基盤とした成果を国内外の学会への参加を促し、研究論文の雑誌等への投稿数増加を図る。 平成29年度 国内外の学会発表および研究雑誌への論文投稿 (日程など各教員および大学院生でそれぞれ検討)
目標達成を測定する指標	・畜産学専攻所属の大学院生および教員参加数 (目標: 25名) ・畜産学専攻以外の学生および教員参加数 (目標: 10名)	国内外の雑誌等への論文投稿数および学会発表数 (著者に大学院生が含まれるものに限定) (目標: 大学院生が2年に一回程度の頻度で学会発表を実施)
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	畜産学専攻所属の全大学院生が参加し (28名)、専攻所属の教員も多数参加した研究進捗発表会を開催できた。本専攻以外の学部学生なども10名以上参加した。	平成29年度において、国内外の雑誌等に10本以上の研究論文 (著者に大学院生が含まれるものに限定) が掲載された (In press 含む)。 また、目標設定年度であるが、半数以上の大学院生が様々な学会や研究会等に参加し、研究発表することができた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生への教育の質的向上や改善が可能になる	【長所】 ・学生の研究能力や意識向上が可能になる
	【特色】 ・本専攻所属以外の学生も自由に参加が可能である	【特色】 ・学会などに参加することで、外部の研究者や大学院生との接点を持つことができ、掲載された自身の研究論文についても議論が可能になる
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし
根拠資料名		

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	大学院生の就職意識向上	博士後期課程進学者の獲得
実行サイクル	___3___年サイクル (平成 29年～ 31年)	___3___年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施 スケジュール	大学院博士前期課程2年進学前から就職活動情報を積極的に提供し、迅速に就職活動を開始できるように準備させる。 平成29年度 適宜に学内外の就職活動情報を提供	畜産学専攻博士後期課程に進学する大学院生を積極的に獲得し、将来の大学教員候補を育成する。特に、各研究室における活動の中で専攻教員が大学院生と密なコミュニケーションを取り、博士後期課程の情報などを積極的に提供する。 平成29年6月 大学院進学説明会実施
目標達成を測定する指標	大学院生の就職率	畜産学専攻博士前期課程大学院生への博士後期課程進学紹介者数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	平成29年度修了予定の大学院生90%以上が内定を獲得し、就職予定である。	大学院進学説明会を実施し、1名の博士後期課程進学希望者を獲得できた。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・就職情報を積極的に提供することで、大学院生の就職活動意識が向上する	【長所】 ・博士後期課程進学者が在籍することで、研究レベルが向上する
	【特色】 ・大学院生の高い就職率によって、大学院進学率の向上につながる	【特色】 ・前期課程在籍学生に対し、就職情報だけではなく博士後期課程進学の情報も提供し、様々な進路を提示する
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・今年度の進学希望者は、前期課程在籍学生ではなく外部（社会人）からの希望者であった
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・外部や社会人だけではなく、前期課程から後期課程に進学を希望する学生を獲得する
根拠資料名		

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 バイオセラピー学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	社会の現場で知的リーダーとして活躍する人材の育成
実行サイクル	2 年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施 スケジュール	プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を磨くため ・各研究室における論文紹介、研究発表の場でのプレゼンと聴講 ・毎月実施される大学院セミナーでの研究紹介と質疑応答 ・年に1度実施される研究中間発表会または修士論文発表会
目標達成を測 定する指標	・毎年度末に実施する大学院生へのアンケート (専攻独自の調査) ・専攻内会議における専攻教員へのヒアリングとその議事録
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	これまで専攻内の分野横断 (研究室間の研究交流) 的セミナーは年に1度の研究中間発表会のみであった。それだけでは異分野の研究内容、技術、知識を得る機会として不十分であるとともに、大学院生に体系的知識と思考を身につけさせることができていなかった。今回の取り組みによって頻繁な研究交流が実現し、異分野への理解が深まった。さらにバイオセラピー学の学問体系への理解が教員だけでなく大学院生にも共有されたと思われる。また、大学院生は発表と質疑の場を数多く経験することで研究に対する深い理解と論理的思考が本取り組みによって養われたと思われる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学部生へも広く開放された専攻のセミナーは多様な意見の抽出の機会であるとともに大学院への進学を考えるきっかけとなっている 【特色】 ・月に1度の頻度で専攻内教員、院生、学部生合わせておよそ30人弱規模の大きなセミナーとなっている
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名	・平成29年度大学院セミナーアンケートとアンケート集計表

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	大学院生の研究に関わる研究論文および図書の出版状況を全員で把握し、互いに切磋琢磨する	バイオセラピー学専攻で展開される研究の相互理解を図る
実行サイクル	____1____年サイクル (平成 29年～ 31年)	____1____年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施 スケジュール	毎年度末に①研究論文、②学術図書、③国内・国際学会発表、④研究費応募状況、⑤学会賞受賞、⑥その他特筆すべき事項を調査し、専攻内教員全員で情報を共有する	毎月一度大学院セミナーを実施する。専攻の全教員、全院生が一堂に会し各回の担当院生が研究の進捗状況をセミナーで発表する。科学的議論による研究の相互理解を図る。発表会の後は食事会を開催し、分野横断的な懇親会の場を設けてより深い研究の相互理解の場を設ける。
目標達成を測定する指標	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の①から⑥の各業績の数値と比較し増減を評価する ・前年度に数値が減少していた業績は当年度の主たる業績増加目標に設定し、年度末に評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度末に実施する大学院生へのアンケート（専攻独自の調査） ・専攻内会議における専攻教員へのヒアリングとその議事録
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	本年度は開始年度とあって前年度との比較は行わなかったが、これまで専攻としての業績集計を行ってなかったため非常に有意義な資料が集まった。本年度の業績について個々の教員または研究室が教育研究の見直しと改善を行う機会を提供した。	月に1度の定期的な大学院セミナーを実施した。セミナーには学部生、院生、教員合わせて毎回30人弱が参加し、活発な議論が行われた。1年を終えて大学院生にセミナーの教育的意義についてアンケートを実施したところ概ね好評であった。しかし、セミナー後の軽食会はいつも同じメンバーが参加し、交流の場としての機能を果たせなかった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・単なる業績リスト集で終わっているため、その中身が見えにくくなっている。	【問題点】 ・大学院生、学部生の参加率が高いが教員の参加率が悪く、教員の賛同者が少ない。 ・軽食会による異分野交流の機能が果たせていない
	【課題】 ・今後は Annual report の作成を目指した取り組みに発展していきたい	【課題】 ・教員に積極的参加を促し、研究の活性をあげる機会としたい ・軽食会をやめてセミナーのスタイルを変更する
根拠資料名		<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度大学院セミナー参加者集計表 ・平成29年度大学院セミナーアンケートとアンケート集計表

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	専攻の教育研究の積極的宣伝による大学院進学者の充実
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29年～ 31年)
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学生が一堂に会する機会を利用して大学院教育の意義と魅力を説明する ・大学院セミナー、中間発表会、修士・博士論文発表会の周知と積極的参加の呼びかけ
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院セミナー、中間発表会、修士・博士論文発表会の学部生の出席者数 ・大学院進学者数の増減
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	毎月1度開催される大学院セミナーに学部生を積極的に呼び、大学院研究の魅力の発信に努めた。特に12月に実施したバイオセラピー学専攻修士・博士研究中間発表会には数多くの学部生が来聴した。これは年度始めより大学院セミナーや研究室活動で大学院教育研究の魅力を発信し続けた成果によるものと考えられる。本年度の大学院受験者数は前年度比プラス12人で2倍以上の伸びとなった。この伸びにはここに示す取り組みの成果も考えられるが、その一方で大学による奨学金制度の充実もあると思われる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組み1年目で大幅に志願者が増えたが、それが取り組みによる効果かどうかは慎重に検討する必要がある <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き本取り組みを続けるとともにより充実した魅力的な情報発信手段を模索していく必要がある
根拠資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度大学院セミナー参加者集計表

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 バイオサイエンス専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	研究室という集団の中で、研究、実習を行うことでコミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性や対人関係の構築力を養うと共に、各個人の独自性、創造性を発掘する。	最先端の知識、技術を習得する中で、自ら情報を収集する能力、問題解決能力を養う。	自らの研究内容を自在に発信・討論できる能力を養成する。
実行サイクル	<u>2</u> 年サイクル（平成29年～30年）	<u>2</u> 年サイクル（平成29年～30年）	<u>2</u> 年サイクル（平成29年～30年）
実施スケジュール	分野ごとの特論実験（一）、（二）において研究室での実験実習、担当教員とディスカッションを通じて教育指導を実施する	分野ごとの特論（一）、（二）において基礎的な知識や最新の研究の動向を理解すると共に、学会、研究会に参加する。	研究室ごとに開講・実施されるプレゼンテーション法において、プレゼンテーションの基礎を学ぶ。また研究成果を国内外の学会、研究会で発表する。
目標達成を測定する指標	研究室での活動率、および中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。複数の教員で各大学院生の進捗を把握すると共に、適切な指導を行う。	中間発表会、修士・博士論文発表会で判断する。また学会、研究会で得られた情報を教員と共有する。	中間発表会、修士・博士論文発表会によって判断する。また学会での発表も評価の指標とする。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	研究室毎のゼミに加え、専攻全体で行う中間発表会、修士論文発表会等の成果発表会より大学院生の成長が確認できた。	中間発表会、修士論文発表会の成果および、学会報告会より目標達成が確認できた。	中間発表会、修士論文発表会等の発表および、学会発表から目標の達成を確認した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・学生の自主性を重視している点	【長所】 ・学会や研究会への参加を積極的にサポートできる点	【長所】 ・ゼミなど日常的に発表の機会を多く設けている点
	【特色】 ・学部学生と一丸となって研究に取り組む点	【特色】 ・動物、植物、微生物まで幅広い研究にふれられる点	【特色】 ・学生毎に合った情報発信方法を訓練できる点。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・海外研究者との交流の機会が限られている点	【問題点】 ・英語での発表の機会が限られている点
	【課題】 ・なし	【課題】 ・国際学会への参加、海外研究者の招聘	【課題】 ・国際学会への参加、海外研究者の招聘
根拠資料名	平成29年度 修士論文発表会 要旨集	平成29年度 修士論文発表会 要旨集	平成29年度 修士論文発表会 要旨集

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目標	生命科学分野における先端研究を推進させる為に、国内外での研究動向、情報をいち早く収集する。	先端研究の推進には、先端技術を駆使した機器および試薬の使用が必須であるため、外部からの競争的研究資金を積極的に導入する。	学術論文の投稿だけでなく、一般向けの講義、講演会やインターネット、出版物を通じて研究成果を発信する。
実行サイクル	__2__年サイクル (平成29年～30年)	__2__年サイクル (平成29年～30年)	__2__年サイクル (平成29年～30年)
実施スケジュール	学会、研究会に参加しこれらの情報収集に役立てる。また有益な情報は学科教員間で情報交換する。	原則として、教員全員が、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金に申請する。	学内、学外での模擬講義、出張講義、講演会を実施する。Web上での情報発信を行う。
目標達成を測定する指標	学会、研究会への参加状況を確認する。	外部資金申請者、獲得者を確認する。	投稿論文数、模擬講義、講演の回数を確認する。ホームページのコンテンツ改訂を確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	全ての教員が国内外で行われている学会、研究会に参加し、積極的に情報交換を行っている。大学院授業担当教員の活動実績として平成29年度は国際学会だけで10名の教員が参加し、17回研究発表しており、目標を十分に達成していると判断した。	指導教授、授業担当教員含め15人中13名の教員が外部資金を獲得していることを確認した。	平成29年度の大学院授業担当教員の実績として科学論文(国際誌)掲載数30報、出張講義、市民講座を合わせて15回、学会基調講演2回であり十分に目標を達成できていることを確認した。また新任教員の加入に伴いホームページも改訂した。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・動物、植物、微生物まで専攻内に幅広い分野の研究者が在籍しており、それぞれの分野での先端研究が把握できる点	【長所】 ・外部資金獲得に対し高いモチベーションを持っている点	【長所】 ・大学ホームページを通じて成果の入力や発信ができる点。
	【特色】 ・専攻内の教員間で活発に情報交換を行っている点	【特色】 ・科学研究費だけでなく企業、財団からも資金を獲得している点	【特色】 ・専攻から幅広い内容を発信できる点
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名		科学研究費ホームページ、大学ホームページ	大学ホームページ

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	本専攻での研究成果を海外に発信する。	生命科学分野の教育・研究を通じてグローバルな視点を持ち、世界の人々と対等に意見交換のできる人材を育成する。
実行サイクル	2年サイクル (平成29年～30年)	2年サイクル (平成29年～30年)
実施スケジュール	国際学会への参加を奨励する。また研究成果を英語の論文としてまとめ発表する。	英語によるプレゼンテーション研修を実施する。国際協力センターの留学プログラムの周知と短期留学を奨励する。これに加えて海外でのインターンシッププログラムを企画する。
目標達成を測定する指標	国際学会への参加回数、論文掲載数を確認する。	英語プレゼン研修については発表会を行い成果を評価する。留学プログラムおよびインターンシップの参加状況を確認する。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	平成29年度の大学院授業担当教員の活動実績は、国際学会での発表会数10回、科学論文(国際誌)掲載数30報であり、目的を十分に達成していると評価した。	12月に1週間の海外英語プレゼン研修(シンガポール・マレーシア)を行い、専攻より6名の学生(前期課程4名、後期課程2名)が参加した。その後、研修成果の発表会を学内で実施した。また、留学生の受け入れを通して国際交流を推進できた。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・毎年多くの成果が学術論文として発表されている点 【特色】 ・幅広い分野の論文発表や学会発表が行われている点	【長所】 ・研究を通じて世界との接点を見出せる点 【特色】 ・留学生との実習や、英語プレゼンテーションにより国内で経験を積むことが出来る点
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし
根拠資料名	大学ホームページ	グローバル学術リーダー育成2017年度アジア海外研修 実施報告書

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農芸化学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	農芸化学学問領域の体系的教育の実施と学生の質の向上 1) 広範な知識の効率的学習支援 2) プレゼンテーション能力向上
実行サイクル	1年サイクル (平成 29年～ 29年)
実施 スケジュール	1) 様々な観点から農芸化学領域に関する知識を得るための大学院特別講義の開催 2) 外部講師によるプレゼンテーション講習会 3) 大学院研究成果中間発表会 (M1) の定期的な実施
目標達成を測 定する指標	1) 講義出席・レポート作成状況を把握する 2) 教員、大学院生間の成果発表会の内容審査を集計し、表彰する
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 【課題】 ・
根拠資料名	「H29年度/M1 中間発表会および修論発表会の表彰の記録」

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	大学院生が関わる研究活動の活性化と研究成果発信の推進
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年～ 29 年)
実施 スケジュール	1) 指導教員との定期的な研究内容の打合せ、ゼミの充実 2) 国内外で開催される関連学会への参加・成果発表、論文発表
目標達成を測 定する指標	大学院生が関わる研究成果の学会発表数と投稿論文数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	大学院生が関わる研究成果の学会発表数：63 件 大学院生が関わる研究成果の投稿論文数：8 報 という結果であった（専攻内集計）。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 【課題】 ・学会発表数・投稿論文数を継続して調査する必要がある。
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	大学院「農芸化学専攻」受験者数の増加
実行サイクル	_1_年サイクル（平成 29年～ 29年）
実施 スケジュール	1) HP と入試説明会などで「農芸化学専攻」を広くアピールする 2) 学部1年次開講の「フレッシュマンセミナー」で大学院進学を意識付けを行う
目標達成を測 定する指標	大学院「農芸化学専攻」受験者数を集計
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	平成29年度入学試験受験者数（前期：1期24名、2期3名＝計27名、後期：0名）が、平成30年度入学試験受験者数（前期：1期名28名、2期9名＝計37名、後期：1期5名）に向上した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・
	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・受験・合格者のなかには他大の大学院に進学する学生もいる。
	【課題】 w ・
根拠資料名	

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 醸造学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	酒類生産学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境科学の専門分野における特論科目を通じて、各専門分野における確かな知識と技術を修得する。	プレゼンテーション法を通じて口頭発表を行う能力を高める	博士後期課程への進学者を確保する。
実行サイクル	<u>2</u> 年サイクル (平成 29 年～ 31 年)	<u>1</u> 年サイクル (平成 29 年～ 30 年)	<u>1</u> 年サイクル (平成 29 年～ 30 年)
実施スケジュール	酒類生産学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境科学の専門分野における特論科目を実施するとともに、最新の知見、技術の導入により内容の充実化を図る。	博士前期課程 2 年の学生を対象に中間発表会(ポスター形式)および最終発表会(口頭発表)を実施する。	醸造学専攻特別講義を 1 年間に 2 回開催し、研究職の魅力をアピールする。
目標達成を測定する指標	専攻内の研究発表、学会発表、就職状況から知識と技術を修得状況について総合的に判断する。	ポスターおよびスライドの完成度、プレゼンテーション技術、質疑応答の状況から総合的に判断する。	博士後期課程進学者数から評価する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	学会発表件数は年間の目標値を達成しており、就職状況についても、食品、医薬品、化学工業、環境関連産業等の専攻として目標としている企業等へ決定していることから、一部達成したと評価しているが、2年サイクルのため、平成31年度に総合的に評価する。	博士前期課程 2 年の学生を対象とした中間発表会(ポスター形式)および最終発表会(口頭発表)を実施し口頭発表の能力が高まった。	2018 年度の大学院入試において博士後期課程進学者を 4 名確保でき、平成 27 年度 0 名、平成 28 年度 2 名に比べて増加し、目標を達成できた。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・ 【特色】 ・	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし	【長所】 ・ 【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・ 【課題】 ・	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・特になし 【課題】 ・効果がみられたので今後も継続する
根拠資料名	就職先一覧	修士論文発表会要旨集	2018 年度大学院農学研究科入学志願者・合格者数

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	韓国国立江原大学との連携を模索する。	発酵・醸造分野における研究発表、および外部資金の申請を積極的に行う。	関連する公的機関や企業等との連携を推進する。
実行サイクル	_____1年サイクル (平成 29年～ 30年)	_____1年サイクル (平成 29年～ 30年)	_____1年サイクル (平成 29年～ 30年)
実施 スケジュール	5月に江原大学で開催される本学と合同のワークショップに、専攻より教員を派遣して本専攻の研究活動の紹介を行い連携の可能性を模索する。	各種関連学会・関連学術雑誌における発表を積極的に行う。科研費を始めとする外部資金の公募時に積極的に応募する。	年間を通して、公的機関や関連業界の企業との共同研究等を積極的に行う。
目標達成を測定する指標	両大学間で交流と情報交換が持続することを、当面の目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表は、専攻で年間20件以上を目標とする。 外部資金申請は、専攻で年間5件を目標とする。 できるだけIFの高い雑誌への投稿を行う。 	専攻全体として、年間5件以上の公的機関或いは企業と連携することを目標とする。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	5月に江原大学で開催された本学との合同のワークショップに、鈴木健一郎教授が参加し本専攻の研究活動の紹介を行った。2月に江原大学の学生が来校し、酒類生産に関する実習に取り組んだ。	学会発表は年間30件、外部資金獲得数年間7件、学術論文数6件(内IF 5.651、IF: 6.216の雑誌含む)であり達成した。	公的機関或いは企業と連携数は年間28件であり、達成した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名			

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 食品栄養学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	教育の可視化を図るため、カリキュラムポリシーに沿って体系化されたカリキュラムを構築する。
実行サイクル	3 年サイクル（平成 29 年～31 年）
実施スケジュール	本専攻において新たに制定したカリキュラムポリシーを達成するため、平成 30 年度からのカリキュラム内容の抜本的な見直しを行い、「食品栄養学特論」と「人間栄養学特論」を必修科目として配することで、初期の段階での食品栄養学の幅広い専門的基礎知識や技術、研究手法を主体的に修得することを可能にするとともに、「食品栄養学特別演習」、「食品栄養学特別演習」を I～IV に細分化して段階的に目標を定めて実施することで論文作成プログラムの体系化を進め、教育の可視化を図る。
目標達成を測定する指標	(1) シラバスへのアクセス数を現状との比較により確認する。 (2) 学生による授業アンケート結果により評価する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・
	【特色】 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・
	【課題】 ・
根拠資料名	

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	栄養科学・食品科学の分野における研究活動を推進し、その研究成果を種々の手段により、国内外の社会に発信する。また、様々な研究助成からの外部資金の取得を試み、研究活動の推進に繋げる。
実行サイクル	__1__年サイクル（平成 29 年～ 年）
実施 スケジュール	(1) 栄養・食品科学分野に関連する国内外の学会に参加する。 (2) 栄養・食品科学分野に関連する和文誌や国際誌に投稿する。 (3) 外部資金獲得のために、科研費、財団の研究助成、学内プロジェクトなどに申請する。
目標達成を測定する指標	達成度を判断するための指標としては、 (1) 教員の学会発表演題数 (2) 学術論文掲載数 (3) 外部資金への申請数 などを確認し評価する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	全般的には、(1) 教員の学会発表演題数 85、(2) 学術論文掲載数 52、(3) 外部資金への申請数 59 といずれも高い水準にあると考えられる。これは、平成 29 年度において、教員と共に研究活動を実施している大学院在籍者数が、定員の 8 割以上（前期課程 24 名のところ 20 名、後期課程のところ 6 名）を満たしていたことが大きいと判断される。これに対し平成 30 年度は、特に博士前期課程在学者が 16 名（67%）と減少することによる影響が懸念される。また、新設の食品安全健康学専攻への食品安全健康学科所属教員の転出（23 名のうち 11 名）による影響も大きいと思われる。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・博士前期課程在籍者の減少並びに所属教員の転出による減少による専攻としてのアクティビティの低下に与える影響をどのように抑えるか。
	【課題】 ・31 年度に向けての大学院生の確保の検討並びに専攻が一体となった研究のモチベーションを高める取り組みの検討。
根拠資料名	資料 1：食品栄養学専攻研究成果 2018 年度大学院農学研究科入学志願者・合格者数 平成 29 年度並びに平成 30 年度学生便覧

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	学部からの研究継続による専攻の研究力向上と大学院における入学定員を十分に確保するために内部進学率の向上を目指す。
実行サイクル	__1__年サイクル (平成 29年～ 年)
実施 スケジュール	(1) 学内推薦入試を導入する。 (2) 大学院特別講義への学部生の参加を促すことで、研究に対する意識付けに繋げる。 (3) 卒業論文研究への早期着手による大学院進学への意識付けを積極的に行う。
目標達成を測 定する指標	(1) 大学院特別講義への学部生参加者数により評価する。 (2) 内部進学生により評価する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	今年度開催した9回の大学院特別講義への学部生の出席者数は、199名であり出席者総数(429名)の46.4%を占めた。一方、30年度大学院入試における受験生内部比率は100%であったが、博士前期課程は定員12名に対し受験者数4名と定員に対する受験生の比率が33%と近年まれにみる低水準であった。後期課程に関しては定員2名に対し2名の応募がありいずれも内部進学生であった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・平成30年度博士前期課程の受験生の定員に対する比率は、僅か33%であり、この水準が今後続くようであるなら、大学院の存亡にも係わる由々しき状況と考えられる。 【課題】 ・応募者数が定員の100%に達するような方策が求められるが、今年度の大学院特別講義出席者が延べ199名に達していることから、31年度の受験状況を注視したい。
根拠資料名	資料2：2017 大学院食品栄養学特別演習 回覧出席者報告用 (参加人数記入)

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 林学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	◎教育課程編成方針に従った大学院授業計画の改善 教育課程編成方針に基づき、大学院授業内容の点検・見直しを通して授業計画の改善を進める。	◎大学院教育の評価を通じた教育の改善 毎年実施される大学院授業・指導アンケート調査を基にし、教育・指導の改善を進める。
実行サイクル	<u>2</u> 年サイクル（平成 29年～ 30年）	<u>1</u> 年サイクル（平成 29年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の点検を行う。 ・授業科目の内容の見直しを行う。 ・授業科目の点検・見直しを通して授業計画の改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業・指導アンケート調査の分析を行う。 ・調査の分析に基づいた教育・指導の改善策を策定する。
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画改善点の明確化 ・改善に基づく授業計画の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の分析 ・調査結果の分析に基づいた改善策の策定 ・改善策の実施
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	授業科目のシラバスの内容の点検を実施 シラバスの内容の点検を受けて授業計画・内容の検討の実施	大学院授業・指導アンケート調査の分析を実施 調査分析に基づく教育・指導の改善点の検討 教育・指導に関する改善点の周知
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・シラバス内容の点検を通して授業の計画・内容の検討・改善に寄与 【特色】 ・授業の計画・内容の向上に繋がる	【長所】 ・大学院授業・指導アンケート調査の分析による具体的な意見等を基にした教育・指導への改善への寄与 【特色】 ・具体的な意見等を教育・指導の改善へ繋げることが可能となる
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・大学院授業・指導アンケート調査の回答率が低い 【課題】 ・大学院授業・指導アンケート調査に関する回答率を高め具体的意見を多く収集する必要がある。
根拠資料名		

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	◎研究指導体制の強化 研究分野ごとに複数の教員の連携・指導を通して知識の高度化や研究力のアップを図る。	◎研究成果公表の推進 研究成果の公表を通じた研究・指導の推進を図る。
実行サイクル	4年サイクル（平成 29年～ 32年）	1年サイクル（平成 29年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 研究分野ごとの情報の共有化を図る。 研究分野ごとの連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の公表スケジュールを検討する。 研究成果の公表にあたっての研究内容を指導する。 研究成果の効果的公表方法を指導する。
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> 研究分野ごとの情報の共有化 研究分野ごとの連携・協力の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の公表
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	専攻会議等を通して研究分野ごと情報共有、連携に関する話し合いを実施 研究分野の将来構想に関する議論の展開	研究成果公表のスケジュールの検討と公表の周知 成果公表にあたっての内容・方法の指導 学内での中間発表及び最終発表（M2）、所信表明（M1）の実施 研究分野ごとの関連学会発表会への推奨
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・直接的対話・議論による情報共有化の向上 【特色】 ・情報の共有化及び連携の強化に貢献	【長所】 ・研究成果の内容の吟味、まとめ方の向上 【特色】 ・研究成果の取り纏め方、伝達の向上に寄与
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし
根拠資料名		

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	◎大学院生の修学・生活相談の推進 大学院生の当初の目的達成に向けて、効果的な修学を図るとともに生活面での相談を推進する。	◎大学院生の就職支援に関する取り組み 大学院生の就職にあたっての支援を強化する。
実行サイクル	_____1年サイクル（平成 29年～ 年）	_____1年サイクル（平成 29年～ 年）
実施 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の修学目的を共有する。 ・効果的な修学を検討する。 ・生活状況を把握するとともに生活相談を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談を積極的に受ける。 ・就職情報を提供する。
目標達成を測 定する指標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の修学目標の共有化 ・効果的修学の見直し ・生活相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談の実施 ・就職情報の提供
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	大学院生との修学にあたっての協議を実施	就職情報の積極的な提供と就職相談の実施
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・教員・院生間の相互理解の向上	【長所】 ・就職内容のより詳細な把握が可能 ・大学院生の就職率の向上に貢献
	【特色】 ・教員・院生間の信頼感の向上	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・
	【課題】 ・なし	【課題】 ・
根拠資料名		

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 農業工学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	博士前期課程におけるシラバスに基づいた院授業の実施
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年度)
実施 スケジュール	前期 4月~7月 シラバスに沿った院授業の実施 後期 9月~1月 シラバスに沿った院授業の実施 12月~1月 平成30年度院授業シラバスの策定
目標達成を測 定する指標	大学院生を対象としたアンケート結果を指標とする
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	博士前期課程においては、ほぼシラバスに基づいて院授業を実施できたが、一部の科目においてはシラバスに則って実施できない科目が存在した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・
	【課題】 ・全科目において、シラバスに則って実施することが課題である。
根拠資料名	大学院生を対象としたアンケート結果

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	博士後期課程の大学院生に対する国際会議での発表の推奨
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年度)
実施 スケジュール	4月から適時、農業工学分野における国際会議の情報を博士後期課程の大学院生に周知し、参加発表を促していく。
目標達成を測 定する指標	平成 29 年度中、発表数/在籍院生数で 1 を目指す。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>農業工学専攻では、博士後期課程の大学院生に対する国際会議での発表を推奨した。そのために、平成 29 年度は農業工学分野におけるグローバル学術リーダーの育成を目指して、教育改革推進プロジェクト「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト (フェーズ 2)」に取り組んだ。</p> <p>その結果、平成 29 年度中、博士後期課程の大学院生 3 名全員が海外で開催された国際会議に出席し発表を行い、発表数/在籍院生数で 1 の目標を達成できた。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業工学専攻博士後期課程の大学院生数の定員は 6 名であるが、3 名しか在籍していなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業工学専攻博士後期課程の大学院生数の定員を埋めるとともに、国際会議での院生による研究発表を継続していくことが課題である。
根拠資料名	平成 29 年度も教育改革推進プロジェクト「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト (フェーズ 2)」報告書案

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	農業工学分野におけるグローバル学術リーダー 育成プログラムの実施
実行サイクル	__ 1 __ 年サイクル (平成 29 年度)
実施 スケジュール	採択後、6・7月からグローバル学術リーダー育成プログラムを開始し、8月に富士農場に英語による研究発表・交流会でサマーキャンプを実施する。併せて農業工学分野における国際会議の情報を博士後期課程の大学院生に周知し、参加発表を促していく。
目標達成を測 定する指標	大学院生を対象としたアンケート結果および英語論文の投稿数を指標とする。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	<p>農業工学分野におけるグローバル学術リーダーの育成を目指して、平成 29 年度も教育改革推進プロジェクト「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト (フェーズ2)」に取り組んだ。</p> <p>予定通りに、富士農場で English Summer Seminar を開催し、博士後期課程の大学院生のみならず前期課程の大学院生も英語で研究発表を行い、英語での議論を深化できる能力の向上を目指した。この English Summer Seminar の教育効果を上げるために、前期中に English Summer Seminar 事前教育として、大学院農業工学専攻の専任教員に加えて外部から専門家を招聘して、科学英語による論文作成能力と英語によるプレゼンテーション能力の向上を目指した集中講義・演習を開講した。併せて、English Summer Seminar およびその事前教育の成果を国際会議で発揮するために、農業工学関連の国際会議への出席および発表を農業工学専攻として推奨した。その結果、平成 29 年度中、合計 9 名の院生が海外で開催された国際会議に出席し発表を行った。</p>
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業工学専攻では継続してグローバル学術リーダーの育成を目指しており、グローバル学術リーダーの育成に向けた農業工学専攻の大学院教員の資質向上 (FD) が必須となっているが、関与の低い教員が存在している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業工学専攻の全教員が一定の質でグローバル学術リーダーの育成に当たれるように改善することが課題である。
根拠資料名	平成 29 年度も教育改革推進プロジェクト「農業工学専攻におけるグローバル学術リーダーの育成プログラムの推進プロジェクト (フェーズ2)」報告書案

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 造園学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	ディプロマポリシーに基づく、カリキュラムプログラムの「質」の向上
実行サイクル	2年サイクル（平成29年4月～31年3月）
実施スケジュール	カリキュラム・ポリシーに基づき、院生に教育目標を十分に周知すると共に、必修科目「造園学総論」において、造園学の形成発展など、建学の精神に基づく教育理念を共有する。また平成29年度より、新カリキュラムに移行しており、今まで以上に専門分野の深化を主眼としたカリキュラムプログラムの構築と実施を行う。
目標達成を測定する指標	ヒアリング及び大学が実施する授業評価に基づき、院生が求める講義・演習内容を把握し、教員が学生に伝えるべきことを教員相互で検討し、講義・演習内容とのすりあわせを十分に検討し、授業に反映する。
自己評価 (を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	造園学の必修科目「造園学総論」を平成29年度より新たに導入、近代造園学がどのような理念や時代背景をもとに形成発展し、建学の精神とはどのような考えに基づいて教育を考えていたかを院生に十分理解してもらい、造園学の体系とはどのようなものであるかを理解してもらおう。また従前は、関係する3分野（造園計画、造園植物、造園工学）すべての基本的講義・演習科目を全て履修するものから、関係する分野に特定した1科目を履修し、今まで以上に専門分野に深化したカリキュラムプログラムに変更した。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <p>・「造園学総論」を新設したことで、造園科学科を創設した上原先生が、本学科の前身である「東京高等造園学校」をどのような理念のもとに創設したかを改めて確認し、現代における造園学の必要性などを再確認できる。また今まで以上に専門分野に深化したカリキュラムの構築を実施することで、院生の専門分野に特化した研究と時間の確保をたもてる。</p> <p>【特色】</p> <p>・現代における造園学の必要性などを再確認することで、院生の研究がどのような社会的意味を有しているかを教員院生相互に確認でき、院生自信のスキルアップに貢献できた。</p>
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <p>・関係する3分野（造園計画、造園植物、造園工学）すべての基本的講義・演習科目を全て履修するものから、関係する分野に特定した1科目を履修し、今まで以上に専門分野に深化したカリキュラムプログラムに変更したが、その効果については、継続的な観察と分析が必要と思われる。</p> <p>【課題】</p> <p>・平成29年度は、他大学から進学したものもおり、造園に関する基礎的事項の理解度など、相互確認に要する時間が多く必要であり、今後他大学や留学生などが入学した場合の対応をどのようにすべきかが課題となる。</p>
根拠資料名	

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	院生の研究意欲の向上と修士（博士）論文（制作）の質的内容の深化
実行サイクル	2年サイクル（平成29年4月～31年3月）
実施スケジュール	指導教員と学生のコミュニケーションの状況・対応が従来以上に密になるよう、論文検討会や発表会後に教員・院生との意見交換会などを定期的実施し研究意欲の向上改善に努め、必要に応じて、専攻主任・主事などが個別に学生に対するサポートを行う。また年数回実施する論文検討・発表会において、研究計画の進捗状況を確認し、研究支援体制などを検討する。
目標達成を測定する指標	論文検討会、公開研究発表会の実施、関係研究機関での口頭発表・論文発表会への参加。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	指導教員と学生のコミュニケーションの状況・対応が従来以上に密になるよう、論文検討会や発表会後に教員・院生との意見交換会などを定期的実施し研究意欲の向上改善に努めた。またメールや面談などを適宜実施し、専攻主任・主事が個別に学生に対するサポートを行った。しかし、一部の院生はいまだ研究対象などを十分に特定できない、論文の展開に不安なものもいるなど、専攻内だけでは解決が難しい事案も生じている。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導教員という特定の教員だけでなく、専攻内の多くの教員と接する機会を設け、様々な分野からの意見や相談をうける機会を確保できる。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻内の多くの教員と接する機会を設け、様々な分野からの意見や相談をうける機会を確保することで、研究計画の進捗状況、妥当性を検証することができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の院生はいまだ研究対象などを十分に特定できない、論文の展開に不安なものもいるなど、専攻内教員だけでは解決が難しい事案もあり、学生への対応強化が大きな問題点となる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の修学上の問題は、論文だけでなく、研究環境や健康問題など多岐にわたるケースが考えられ、健康増進センターのカウンセラーなど、関係機関などとの今まで以上の連携も視野に入れる必要がある。
根拠資料名	

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	産・官・学・民の連携による大学院教育・研究活動の推進と発信
実行サイクル	2年サイクル (平成29年4月～31年3月)
実施スケジュール	グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる能力を養うために、フィールドワークなど (国内外) を通じて授業・研究に相互に反映する。
目標達成を測定する指標	教育・研究成果のHPを通じての外部発信や、MLA アワード (最優秀修士論文賞) 授賞講演会の実施など。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	平成29年度には、はじめて韓国 (二泊三日) での演習を実施するなど、グローバル時代の多面的な地域環境問題の解決に果敢に挑み、自然と共生する地域づくりに貢献できる能力を養うために、フィールドワーク通じた授業を実施することができた。また MLA アワード (最優秀修士論文賞) 授賞講演会の実施できた。しかし、教育・研究成果のHPを通じての外部発信などについては、実施することができなかった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・ 国外でのフィールドワークなどを通じた授業、現地大学の教員などと接する機会を確保することで、グローバル時代の多面的な地域環境問題の視座を検証することができる。
	【特色】 ・ 国外でのフィールドワークなどを通じ、造園学の直面する新たな課題認識に対して現地調査を通じて行うことができる。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・ 今回は客員教授・研究員からの申し出もあり、国外でのフィールドワーク通じた授業を実施することができた。しかし、日程確保や予算面での継続性をどのように担保できるか問題となる。
	【課題】 ・ 国内外でのフィールドワークについては、対象をどうするか、日程確保や特に予算確保面をどうするかなどが課題としてあげられる。また HP を通じての外部発信については、HP の積極的な利活用方法の検討が必要かと思われる。
根拠資料名	

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地弘信
 学科名・専攻名 国際農業開発学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	自然科学および社会科学にわたる広範な学問領域を統合する総合的アプローチにより、農業開発や国際協力にかかわる問題の解決を図るための論理的な思考力と実践力を持つ	異なる文化や習慣を尊重した活動を展開できる人材を育成する	国内外の農業開発ならびに国際協力分野でリーダーシップをもって活躍できる人材を育成する
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル (2018 年～2022 年)	<u>4</u> 年サイクル (2018 年～2022 年)	<u>4</u> 年サイクル (2018 年～2022 年)
実施スケジュール	自然科学と社会科学の両領域で、それぞれ基幹となる必修科目を履修し、総合的な知識を修得するとともに、農業開発や国際協力にかかわる諸問題や研究手法について学ぶことを目的とし、各研究領域をカバーする座学科目および実験・演習科目ならびにフィールド調査を選択科目として履修する。	他国の文化・社会・習慣などの多様性に十分な知識と理解を有し、柔軟な思考力と判断力、さらにコミュニケーション力を身につけ、演習・実験を通して国内外のどの地域でも自己の能力を発揮して社会に貢献することができる能力を養う。	特別講義、インターンシップ、国内外におけるフィールド調査、視察研修などを実施し、国内外の多種多様な社会の場において、パイオニア的存在としてリーダーシップを発揮できる能力を養う。
目標達成を測定する指標	カリキュラムの実施状況	専攻の全指導教授または指導准教授が出席し、発表者に対してコメントや意見を述べる専攻内研究発表会の開催状況、多様な国からの留学生が参加して行われる総合交流の場としてコーヒーブレイクの実施状況。	特別講義、インターンシップ、国内外におけるフィールド調査、視察研修などの実施状況。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	すべてのカリキュラムを適切に実施した。	院生発表会は予定どおり前・後学期に各1回実施した。コーヒータイムは前学期に9回実施したが、後学期は多忙のため実施できなかった。	国内外におけるフィールド調査は10名程度の院生が実施した。特別講義とインターンシップは実施しなかった。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、授業以外で院生とコミュニケーションをとる時間が十分に確保できない。	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名			

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	国内外の農業・農村開発の現場におけるさまざまな問題解決に貢献する課題解決型研究の推進	農業・農村開発を通じて国際的に活躍する人材を育成するため、国内外の大学・研究教育機関・国際協力機関と連携した研究活動の実施	国内外の多種多様な社会の場において、パイオニア的存在として活躍する人材を育成するため、地域・社会と連携した研究活動の実施
実行サイクル	_____ 4 _____年サイクル (2018年～2022年)	_____ 4 _____年サイクル (2018年～2022年)	_____ 4 _____年サイクル (2018年～2022年)
実施スケジュール	学内外の競争的資金を獲得し、研究プロジェクトを実施する。	国内外の大学・研究教育機関・国際協力機関と連携した研究を実施する。	地域・社会と連携した研究を実施する。
目標達成を測定する指標	研究プロジェクトの実施状況。	国内外の大学・研究教育機関・国際協力機関と連携した研究活動の実施状況。	地域・社会と連携した研究活動の実施状況。
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	専攻教員16名中10名がのべ21件(学内6件、学外15件)の競争的資金を獲得し、研究代表者・研究分担者・プロジェクトマネージャーなどとして研究課題を遂行している。	専攻教員16名中6名がのべ17件(国内5件、国外12件)の連携研究を実施している。	専攻教員16名中9名が国内外でのべ25件の地域・社会と連携した研究活動を実施している。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、研究プロジェクトを実施する時間が十分に確保できない。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、連携研究を実施する時間が十分に確保できない。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、地域・社会と連携した研究活動を実施する時間が十分に確保できない。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	2017年度開発専攻教員活動状況	2017年度開発専攻教員活動状況	2017年度開発専攻教員活動状況

3. その他に関する総合的事項

	①	②
目 標	地域社会と連携した取り組みを推進する。	民間企業などと連携した取り組みを推進する。
実行サイクル	_____4____年サイクル (2018年～2022年)	_____4____年サイクル (2018年～2022年)
実施 スケジュール	地域社会と連携した取り組みを実施する。	民間企業などと連携した取り組みを実施する。
目標達成を測 定する指標	地域社会と連携した取り組みの実施状況。	民間企業などと連携した取り組みの実施状況。
自己評価 (<input checked="" type="checkbox"/> を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	専攻教員 16 名中 8 名が国内外で地域社会と連携したとりくみを実施している。	専攻教員 16 名中 1 名が国外で民間企業と連携したとりくみを実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、地域社会と連携した取り組みを実施する時間が十分に確保できない。	【問題点】 ・多くの教員が学部学生への教育や学内業務に忙殺されており、民間企業などと連携した取り組みを実施する時間が十分に確保できない。
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	2017 年度開発専攻教員活動状況	2017 年度開発専攻教員活動状況

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地弘信
 学科名・専攻名 農業経済学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	大学院生が的確かつ体系的に情報を整理する能力と論理的思考能力を醸成するため、プレゼンテーション法、論文作成法、総合演習を実施し、教育力の向上を図る。
実行サイクル	1 年サイクル（平成 29 年～ 年）
実施 スケジュール	第1回総合演習の実施（6月） 第2回総合演習の実施（11月） 第3回総合演習の実施（12月） 第4回総合演習の実施（1月） プレゼンテーション法・論文作成法（随時）
目標達成を測 定する指標	①各総合演習の報告資料 ②プレゼンテーション法・論文作成法の受講者数
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	第1回総合演習は、6月16日（土）に実施し、前期課程2年生3名、後期課程2年生2名、同3年生2名が報告した。就職活動のため報告できなかった1名は後日報告した。 第2回総合演習は、11月17日（金）に実施し、前期課程2年生4名が報告した。 第3回総合演習は、12月15日（金）に実施し、前期課程1年生3名、後期課程1年生2名、同2年生2名が報告した。 第4回総合演習は、1月24日（水）に実施し、前期課程2年生4名が報告した。 プレゼンテーション法は4名、論文作成法は4名、フィールド調査は2名、研究発表手法論は3名が受講した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし
根拠資料名	・各総合演習の報告資料 ・各科目の受講者リスト

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	農業経済学専攻では、大学院生が社会科学の専門領域における知識と研究能力を修得することを目標としており、本専攻の大学院生による学術雑誌『農経研究報告』をはじめ、各専門領域の学会で、教員との共同研究を含め研究発表や学会誌への投稿を行い、研究力の向上を図る。
実行サイクル	1 年サイクル (平成 29 年～ 年)
実施スケジュール	『農経研究報告』への投稿準備 (7月) 『農経研究報告』への投稿 (9月) 『農経研究報告』の査読結果への対応 (10月～12月) 『農経研究報告』の発行 (3月) その他の学会発表・学会誌への投稿 (随時)
目標達成を測定する指標	①『農経研究報告』への掲載論文 ②大学院生の学会発表、学会誌投稿・受理の状況
自己評価 (☑を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	7月10日 院生の『農経研究報告』への投稿を指導教員に呼びかける。 9月26日 第1回編集委員会を開催、投稿原稿の確認、査読者を決定。 11月1日 第2回編集委員会開催、査読結果を受け、投稿者に修正を依頼。 12月6日 第3回編集委員会開催、再投稿原稿確認のうえ受理。ただし、一部の投稿者には再々修正を依頼。 1月16日 第4回編集委員会開催、再々投稿原稿を受理。 3月20日 『農経研究報告』第49号 掲載論文4本で発行予定。 大学院生の学会発表(括弧内の数字は延べ数、+は筆頭以外)として、日本農村生活学会(2)、日本フードシステム学会(1+1)、実践総合農学会(2)、日本農業市場学会(1)、The Asia Pacific Co-operative Development Research Conference(1)、経済地理学会(4)がある。学会誌で受理または掲載された論文は、『フードシステム研究』(1+1)、『農業経営研究』(+1)、『農村研究』(3)がある。左記以外の学会誌への投稿(審査中を含む)は、『フードシステム研究』(1)、『農業経営研究』(1)、ICA-AP Proceedings(1)、『農村研究』(1)、『食農と環境』(1)がある。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・なし 【特色】 ・なし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし 【課題】 ・なし
根拠資料名	『農経研究報告』第49号(発行予定) 農業経済学専攻大学院生の研究状況

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	近年、農業経済学専攻では入学者が少ない傾向にある。博士前期課程、博士後期課程ともに、入試受験者確保に向けて努力する。
実行サイクル	1 年サイクル（平成 29 年～ 年）
実施 スケジュール	第1回大学院入試説明会の実施（5月） 第2回大学院入試説明会の実施（6月） 学内推薦入試（6月） 1期入試等（7月） 第3回大学院入試説明会の実施（11月） 2期入試等（1月）
目標達成を測 定する指標	①各入試説明会の参加者数 ②各入試受験者数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	5月17日に第1回の大学院入試説明会を実施し2名が参加した。6月3日に第2回の大学院入試説明会で実施し2名が参加した。 学内推薦入試は残念ながら受験者がいなかった。1期入試では前期課程4名、後期課程2名が受験した。 11月24日に第3回の大学院入試説明会を実施し、3名が参加した。 2期入試では残念ながら受験者がいなかった。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・学部生が大学院という進路をあまり認識していない状況があるので、1年生を対象としたフレッシュマンセミナーや3年生を対象とした就職ガイダンスなどのなかで、キャリア形成の一環として大学院とい う進路を説明する機会を検討する。
根拠資料名	・大学院入試説明会参加者名簿 ・専攻委員会議事録

研究科名 農学研究科
 研究科委員長名 志和地 弘信
 専攻名 国際バイオビジネス学専攻

1. 教育に関する総合的事項

	①	②
目 標	大学院の講義における成績の相対評価化 (将来的な GPA 導入の環境整備)	AP/DP に適合した大学院生の研究・プレゼンテーション能力の向上
実行サイクル	<u>4</u> 年サイクル (平成 29 年～ 32 年)	<u>4</u> 年サイクル (平成 29 年～ 32 年)
実施 スケジュール	①大学院成績評価の現状と課題の明確化 ②上記①を踏まえた実施方策 (改善点) の検討 ③上記②の実実施方策に沿った評価実施と課題の再確認 ④目標達成に至るまで上記②と③のプロセスを毎年度実施	①専攻開催の研究成果報告会 (中間・最終) の実施方法の検討 ②上記①を踏まえた、新たな研究・プレゼンテーション内容評価方法の提案 ③上記②の評価方法の実施と効果の確認 ④目標達成に至るまで上記②と③のプロセスを毎年度実施
目標達成を測 定する指標	①相対評価を実施する教員数 (比率) ②相対評価を実施する科目数 (比率)	①全担当教員による改善度評価 ②参加学生の満足度評価
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	理解度確認のための小テストを行ったりしている授業もあるが、基本的は個々の教員の指導・教育方針の下で成績評価を行っている。	実施スケジュール①～③に関連し、特別総合演習等で行っている研究成果報告会で新たな評価方法を導入し、その有効性を検討している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 特になし。 【特色】 特になし。	【長所】 これまでの調査・研究成果報告会では、主に研究計画・研究成果のプレゼンテーションと質疑応答を通じた評価が中心であったが、新評価方法では、それらを踏まえて教員が5段階評価し、評価結果を数値化している。 【特色】 プレゼンテーションにかかわる事前提出資料とプレゼンテーション内容を、各教員が報告者ごとに5段階 (最低1点、最高5点) 評価し、その平均を計算する。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 特になし。 【課題】 客観的な評価や大学院生の勉学意欲を高めるような成績評価を行うため、各教員の現在の成績評価方法について検討し、課題を整理する必要がある。	【問題点】 特になし。 【課題】 客観的な評価を行うため、できるだけ多くの教員が評価に参加するとともに、教員間の評価結果に著しい差が生じないように評価の基準をできるだけ統一する必要がある。
根拠資料名	特になし。	主事が管理する採点表ファイルおよび採点結果ファイル

2. 研究に関する総合的事項

	①	②
目 標	大学院（博士後期課程）研究支援制度への対応	バイオビジネス分野を対象とした専攻外研究者との共同研究成果の蓄積
実行サイクル	___4___年サイクル（平成 29年～ 32年）	___4___年サイクル（平成 29年～ 32年）
実施 スケジュール	①現行の大学院博士後期課程研究支援制度への応募可能性の確認 ②次年度に向けた対象学生・対象テーマの選定 ③制度への申請準備支援 ④制度への申請	①外部資金等を利用した専攻外研究者との共同研究の検討、役割分担の明確化、研究計画の策定 ②外部資金等の獲得に向けた活動・行動 ③資金・予算獲得できた研究の実施 ④成果の取りまとめと社会化
目標達成を測定する指標	①（博士後期課程等）対象学生に対する応募者数比率	①外部資金等の獲得の有無 ②研究成果の学会報告数、論文投稿数、出版著作数
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	本年度、東京農業大学が実施している大学院博士後期課程研究支援制度に国際バイオビジネス学専攻博士後期課程在籍の2名の大学院生が応募し、採用された（応募者比率67%、採択率100%）。	文科省の科研費等を利用した、所属教員と専攻外研究者との共同研究が複数取り組まれている。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】支援制度に採択されたことによって、採択された2名の大学院生の調査研究活動が円滑に遂行され、学会報告等も可能となった。 【特色】特になし。	【長所】専攻外研究者との共同研究によって、各教員の専門研究分野での研究成果の蓄積が図られている。 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】特になし。 【課題】特になし。	【問題点】特になし。 ・ 【課題】学内業務や学生指導にさく時間が増大する中で、いかにして専攻外研究者との新規共同研究を推進していくかが課題となっている。 ・
根拠資料名	大学院博士後期課程研究支援制度の報告書、ポスター報告	科研費報告書等

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	国際バイオビジネス学専攻教育課程の整備	大学院生の研究・生活基盤の確立支援	インターンシップ科目の活用と進路指導の強化
実行サイクル	___4___年サイクル (平成 29年～ 32年)	___4___年サイクル (平成 29年～ 32年)	___4___年サイクル (平成 29年～ 32年)
実施スケジュール	①現行教育課程の検討と問題点の抽出 ②国際バイオビジネス学科の教育課程改革との関係性の検討 ③上記①と②を踏まえた専修分野の見直し (分野数、内容、名称、科目等) ④農学研究科専攻主任会議および農学研究科委員会への議題提出	①大学院生の生活実態の把握 ②大学院生向けの研究費・奨学金等の情報収集 ③大学院生 (+入学予定者) への奨学金申請の促進	①大学院入学時の早い段階で大学院修了後の進路について検討させ、進路目標の設定とそれに向けた具体的計画を策定させる。 ②インターンシップ科目の受講とインターンシップへの積極的参加を指導する。 ③適宜、指導教員による進路相談を実施する。
目標達成を測定する指標	①平成33年4月に新たな教育課程が整備されていること	①大学院生のうち奨学金応募者数割合 ②奨学金応募者に占める奨学金受給者割合 ③外部の研究支援制度 (学振等) への応募支援	①就職希望学生に対するインターンシップ実施者割合
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更	<input type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	実施スケジュール①に関する問題点・課題の抽出を行った。	4月のガイダンス等を通じて、本学の国際協力センターとも協力しながら、実施スケジュール①～③に取り組んでいる。その結果、博士前期課程1年の外部奨学金への応募者が増え、そのうちの複数名が奨学生に採用されている。	本専攻は留学生が多く、インターンシップ希望者はいてもごくわずかである。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 特になし。	【長所】 特になし。 ・	【長所】 特になし。 ・
	【特色】 特になし。	【特色】 特になし。 ・	【特色】 特になし。 ・
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 特になし。	【問題点】 特になし。 ・	【問題点】 特になし。 ・
	【課題】 本年度行った問題点・課題について次年度に対応できるものは次年度に具体的対策を講じる。また、実施スケジュール②と③については、学科改革と連動させながら数年かけて検討していく。	【課題】 来年度以降も、特に、4月のガイダンス等を通じて、新入院生に外部奨学金に応募するよう、引き続きしっかり指導していく。	【課題】 4月のガイダンス等を通じて、インターンシップ関係の情報を就職希望大学院生に提供するとともに、何かあれば適宜指導教員等が相談にのることを周知する必要がある。
根拠資料名	専攻会議資料。	各種奨学金財団関係の報告書	本学キャリアセンターの関係文書

学部・研究科名 農学研究科
 学部長・研究科委員長名 志和地 弘信
 学科名・専攻名 環境共生学専攻

1. 教育に関する総合的事項

①	
目 標	地球環境の悪化に伴う自然生態系保全やひとの生活環境への影響を削減方策など、環境共生型社会の構築を具現化するための理論や方法を探求する研究能力を有し、独創的かつ学術的な立場から社会に貢献しようとする広い視野、問題意識、強い意欲を教育する。
実行サイクル	<u>3</u> 年サイクル（平成29年～31年）
実施 スケジュール	各指導教員による院生に対する個人指導の充実、専攻における院生の口頭論文発表会実施の充実（学位論文公開発表会前に中間発表会の充実）、各指導教員による国内および国外学会発表の推進、国内外における学会誌への研究論文投稿の推進、より質の高い学位論文の作成指導 について、3年間かけて充実していく。
目標達成を測 定する指標	指導教員による綿密な研究論文指導を通して、各院生には年2回のスクーリング時に研究発表会および討論会を行い、学位所得に向けて専攻教員が評価する。
自己評価 (☑を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	指導教員による個人指導を綿密に行っていることと、年2回の専攻全体によるスクーリングを通じて、研究発表会および討論会が充実している。しかし、学位申請を予定していた院生のなかに、働きながら学位取得するという生活の中で、体調不良者が出て、平成29年度学位取得を延期する院生が出た。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	<p>【長所】・専攻を3分野に分け、とくに社会人大学院生の受け入れに十分対応できるように配慮した教育を行っている。また、院生においては、自分以外の院生の研究を知り、幅広い研究分野の知識も習得できる。</p> <p>【特色】・入学を希望される方に対して事前に研究分野や研究の方向性を指示し、指導教授の選定を実施し入学後の教育がスムーズに進むように配慮している。</p>
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	<p>【問題点】・専攻を3分野に分けているが、近年、指導教授の退職者にとまなう補充に苦慮しており、入学希望者は十分にいるが、指導教員の不足で、受け入れができない場合が生じている。また、上記現状説明にもあるが、学位取得予定者のなかで体調不良により取得を延期した院生については、平成30年取得できるように、指導教授ならびに専攻教員全体での指導できるようにバックアップしていく。</p> <p>【課題】・幅広く、環境共生学専攻分野を担当できる指導教員の確保が望まれる。</p>
根拠資料名	特になし。

2. 研究に関する総合的事項

①	
目 標	現在の院生の半数以上は海外に眼を向けた食品流通に関する研究であることから、将来にわたり研究発表の場の国際化を推し進めるとともに、地球規模での環境共生に係わる問題研究を進める。
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～31年）
実施スケジュール	現在の院生による研究が、より質の高い成果が得られるよう専攻教員が支援しながら、年次ごとに進める。また、年度ごとに入学する院生は、環境共生学専攻の研究の進め方についても逐次理解してもらう。
目標達成を測定する指標	院生には年2回のスクーリング時に研究発表会および討論会を行い、専攻教員が評価する。さらに、国内外の学会で研究発表を行い、その評価を確認する。
自己評価 (を記入)	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	院生においては、研究フィールドを海外にもつ者を数名おり、十分国際化が進められている。さらに、毎年国内外で研究発表も行われており、専攻としての指導体制が順調に実施されている。今後は、研究の発表の場を海外にさらに推し進めていくことが必要である。
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・院生による研究データの取得解析、研究発表は順調に実施されている、 【特色】 ・広く環境共生学に関する研究発表が実施されている。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・環境共生学分野での研究のフィールドや発表の場について、レベルの高い国際化を進めていく。 【課題】 ・海外での研究の発表方法の指導およびそれに係わる費用の補助を行い、研究の国際化を図る。
根拠資料名	特になし。

3. その他に関する総合的事項

①	
目 標	社会人で、幅広く農学分野で環境共生学に関する高度な知識と独創的研究能力を学び学位論文の取得を希望者される方が多く入学できることに力を入れる。
実行サイクル	3年サイクル（平成29年～31年）
実施スケジュール	環境共生学専攻独自の入試制度および奨学金制度である社会人特別選抜制度を生かし、広く社会人で学位を取得希望する入学者を増やす体制を整備する。専攻独自のホームページの充実を図り、働きながら学位を3年間で所得できる特色をよりPRしていくとともに、専攻の指導教授の研究分野・専門性を明確にしホームページで公開していく。
目標達成を測定する指標	入学定員の確保
自己評価 (を記入)	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 一部達成した <input type="checkbox"/> 達成できず要継続 <input type="checkbox"/> 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	近年、入学定員が満たされていないのが現状である。毎年、入学希望者はいるが、専攻教授の研究専門分野以外の研究範囲の者が多数出てきており、受け入れができない場合が出てきている。しかし、教員等の努力で専攻のPRにより、平成30年度は定員5名に対して入学者6名が確保できた。
現状説明を踏まえた長所・特色	<p>【長所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者に対して自然科学や社会科学など、多岐にわたった研究指導体制を有している。 <p>【特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学に関する自然科学および社会科学に対応した指導体制とともに、複数の指導教員での体制もとれるように配慮している。
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	<p>【問題点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学に関する自然科学および社会科学など、幅広く指導できる教員の確保が必要である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻な3分野について、退職者等にとまなう幅広い研究の専門性をもつ教員の補充と増員が必要である。
根拠資料名	特になし。